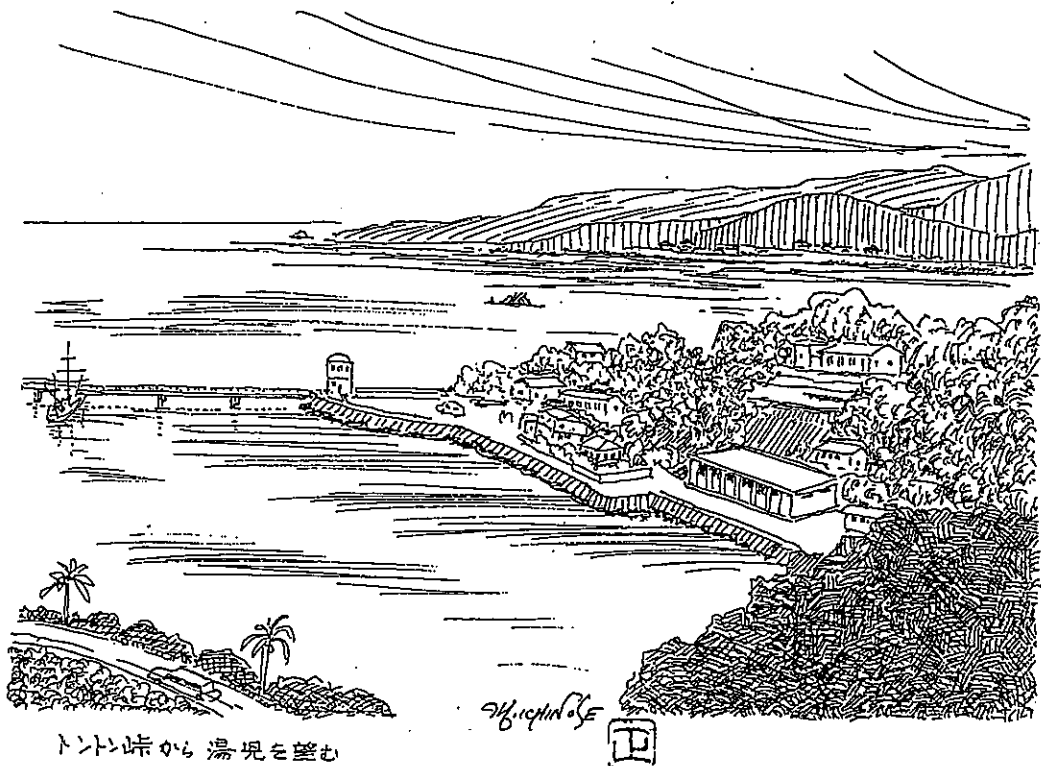


水俣市環境学習資料集

～郷土水俣を誇れる子どもを育成する学習プログラム～



水俣市教育委員会

この資料集を活用する先生方へ

郷土水俣を愛し、水俣を誇りに思い、水俣の発展のために積極的に行動する子どもの育成は、教職員一人一人の願いであるとともに市民の願いでもあります。

これまで水俣市教育委員会は、平成6年度に発行した水俣市生活環境教育副読本「心ゆたかに水俣」の二度の改訂を行い、水俣病についての学習や「水俣再生」の取組、そして水俣をめぐる社会の動きの変化などに係る学習が展開できるようにしてきました。また、各学校におきましては、年間計画に基づき水俣病に関する学習や環境教育にも積極的に取り組んできました。水俣市の生徒が受けた水俣病差別発言に際し、生徒や先生方が行った適切な対応は、これまでの各学校が取り組んできた水俣病学習の大きな成果であると考えています。

水俣市の子どもたちが将来にわたって郷土水俣を誇れるためには、水俣病に関する正しい理解とともに、環境モデル都市として取組を進める水俣市の様子について関連付けながら系統的に学ぶことが必要であると考えました。そこで、各学校の先生方からなる環境学習資料作成委員会を立ち上げ、各委員が考えを持ち寄り、数多くの検討会を重ねながら本資料集を作成しました。関わっていただきました先生方には大変お世話になりました。

各学校におきましては、本資料集を水俣病学習や環境教育のさらなる充実に有効に活用いただければと思います。そして、先生方の創意工夫を加味しながら、郷土水俣を誇りに思う子どもたちの育成を目指していただくことを期待しています。

平成23年3月 水俣市教育長 葦 浦 博 行

表紙挿絵提供 一ノ瀬 正敏氏

水俣市環境学習資料集 目次

1	水俣市環境学習資料集のねらい	2
2	水俣市環境学習資料集の主な内容及び育てたい児童生徒像	
3	本資料集で培う資質・能力の視点	3
事例1	(小学校1年生 学級活動・生活科) 「たいせつないのち・たいせつなかぞく」	5
事例2	(小学校2年生 生活科)「もっと知りたいな町のこと」 ～生命の大切さ・自然を大切に作る心の育成～	12
事例3	(小学校低学年 学級活動)「ふれあい集会をひらこう」 ～水俣病との出会い・水俣病についての基本的な知識・理解～	15
事例4	(小学校3年生 社会科)「市の様子」	17
事例5	(小学校4年生 社会科)「ごみのしよりと利用」	28
事例6	(小学校5年生 社会科)「環境を守るわたしたち」	32
事例7	(小学校6年生 総合的な学習の時間) 「水俣病について学んだことを新潟県の小学生に伝えよう！」	38
事例8	(中学1年生 学級活動)「今の水俣を伝えたい」	44
事例9	(中学校2年生 学級活動)「内側からの差別と向き合って」	54
事例10	(中学校3年生 学級活動) 「『水俣病の教訓を生かす』生き方について考えよう」	60
	水俣病関係年表	65

1 水俣市環境学習資料集のねらい

本資料集は、水俣病について学ぶとともに、水俣病の教訓をもとに環境モデル都市としての取組を進める水俣市について理解を深め、将来にわたって郷土水俣を誇れる児童生徒を育むために活用することをねらいとしています。

これまで水俣市では、各小中学校で積極的に水俣病に関する学習を展開するとともに、学校版環境ISO等の環境教育にも取り組んできました。本資料集では、これまでの各学校の取組を大切にしながら、ねらいを達成するために各学年で実施可能な実践を事例として示しています。各学校におきましては、本資料集を参考として活用するとともに、それぞれの学校の実態に応じてさらに具体的な水俣病学習や環境教育の推進を図ってほしいと思います。

2 水俣市環境学習資料集の主な内容及び育てたい児童生徒像

児童生徒が水俣病について学び、環境モデル都市としての取組を進める水俣市の姿を理解するためには、系統的な学びが必要です。

小学校低学年においては、水俣病との出会いのなかで、基本的な知識を学ばせるとともに、「家族愛」「命の大切さ」「自然を大切にする心」など水俣病を学習するうえで重要となる要素について、心の醸成を図る必要があります。

中学年では、水俣病に関してより深く学ぶとともに、水俣市の様子について理解し、環境を大切にしたい取組を進めている様子を具体的に学び始めます。

高学年では、水俣病について多面的・総合的に理解し、水俣病の教訓をもとに環境モデル都市としての取組を進める水俣市を関連付けて学びます。

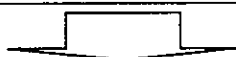
さらに中学校では、今なお水俣病に対する差別や偏見があることを理解したり、水俣病患者さんからの生き方に学んだりしながら自らの行動や生き方を高め、最終的に郷土水俣を誇れる児童生徒を育成していきます。

なお、各学校で機会を設けて患者さん・家族さんの家族との交流や関係機関の見学等を系統的に行うことで教育効果が高まります。

(表1 各段階と学びの内容)

段 階	学 び の 内 容	その他の活動 (例)
小学校低学年	○水俣病との出会い ○水俣病についての基本的な知識・理解 ○家族愛・命の大切さ・自然を大切に する心の育成等についての学習等	患者さんとの交流
小学校中学年	○水俣病についての基本的な知識・理解 (人権問題に係る内容等) ○家族愛・命の大切さ・自然を大切に する心の育成等についての学習 ○水俣市の環境を大切にしたい取組につい	患者さんとの交流 地域の調査・見学 関係機関の見学(水資源に係 る機関・クリーンセンター 等)

	ての基本的理解（水の確保・ごみの処理） ○水俣の自然や環境等への理解	
小学校高学年	○水俣病についての総合的な理解（多面的な視点からの理解） ○水俣病を教訓に環境モデル都市へと取り組む水俣の姿 ○水俣病から学んだことの発信	患者さんとの交流 水俣病資料館の見学（語り部さんの話） チッソ工場の見学 学習した内容の発信
中学校	○水俣病に対する差別・偏見に対する基本的認識と行動 ○水俣病から学んだことの整理・統合と発信 ○環境モデル都市への取組を進める水俣市の理解と自分の行動の深化	患者さんとの交流 関係機関の見学・連携 映像資料等の活用



中学校卒業までに最終的に育てたい児童生徒像

水俣病についての正しい認識に基づき、環境モデル都市として取組をすすめる水俣市の姿を理解し、将来にわたって郷土水俣を誇れる児童生徒

3 本資料集で培う資質・能力の視点

本資料集で児童生徒に培う資質・能力については、①知識的側面、②価値的・態度的側面、③技能的側面から迫ろうと考えました。

① 知識的側面

水俣病に対しての正しい認識とともに、水俣市の環境に対する取組を関連付けて知的理解を目指すものです。水俣病については、誤った情報や見方、考え方から誤解や偏見、差別が生じ、様々な問題を引き起こしました。子どもたちの成長に伴い、水俣病や環境に係る正確な情報をもとに、公正・公平な判断をすることは、今後の自らの考え方を高めるために役立つものです。

② 価値的・態度的側面

水俣病がもたらした様々な人権問題を身近に感じ、人権問題を解消しようとする意欲や態度の育成を目指すものです。同時に身近な地域や社会の発展に主体的に関与しようとする意欲や態度の育成も目指します。

③ 技能的側面

この技能が目指す資質・能力は、偏見や差別を見きわめる技能やコミュニケーション技能、複数の情報をもとに公正な結論を導き出す技能などが含まれ、水俣市で育てたい児童生徒像の

児童生徒像の育成に深く関わるものです。

なお、これらの資質・能力の視点と内容例は表2のとおりです。本資料集では、それぞれの指導計画の備考欄に関連する内容例を明記しています。

(表2 本資料集で培う資質・能力の視点と内容例)

視 点	内 容 例
① 知識的側面	ア 水俣病に係る歴史や現状に関する知識 イ さまざまな人権問題に関する知識 ウ さまざまな環境問題に関する知識 エ 水俣市における環境再生への取組に関する知識 オ 自らを取り巻く身近な地域に関する知識など
② 価値的・態度的側面	ア 人間の尊厳、自己及び他者の価値を感知する感覚 イ 人権侵害を受けている人々を支援しようとする意欲や態度 ウ さまざまな人権問題の解消に向かって活動しようとする意欲や態度 エ 身近な地域や社会の発展に主体的に関与しようとする意欲や態度 など
③ 技能的側面	ア 他者の痛みや感情を共感的に受容できるための想像力や感受性 イ 偏見や差別などを見きわめる技能 ウ 複数の情報源から情報を収集・吟味・分析し、公正な結論に到達する技能 エ 能動的な傾聴、適切な自己表現等を可能とするコミュニケーション技能 オ 身近な地域や社会の発展のための適切や行動を選択できる技能 など

事例1 (小学校1年生 学級活動・生活科): 「たいせつないのち・たいせつなかぞく」

1 本事例の目的及び概要

水俣病学習の出会いとなる1年生では、これから学んでいく水俣病の原因物質や発症の構造など基本的な知識を学習するとともに、水俣病によって尊い生命が奪われ、健康や体の自由を奪われた患者さんや患者家族の悲しみや苦しみを学ばせたい。

また、水俣病について学習していくにあたり、生命が失われた悲しみや苦しみを理解させるために、生活科や学級活動等における生命や家族愛の学習と水俣病学習を体系化することとした。水俣病学習との出会いである1年生に、生命の誕生の尊さや喜びと、水俣病学習の基礎的な内容を身につけさせることをねらいとするものである。

2 留意点

- 実施時期については、各学校の水俣病学習や学級活動等の年間計画に沿って行う。
- 単なる知識としての理解にとどまらず、生命尊重・自己や他者の価値を認識し、喜びや悲しみなどの感受性を培えるように指導する。

3 学習の進め方

(1) 単元の目標

- 一人一人の生命の大切さを学び、自分の生命も他者の生命も同じように大事な生命であることを理解する。
- 家族の一員として自分ができる役割を果たそうとすることで、家族愛を共感する。
- 水俣病発生の仕組みや原因を知る。

(2) 指導計画 (9時間+1時間取り扱い) 【学級活動1時間+生活科8時間】 【学級活動1時間】

時間	目 標	学習内容及び活動	備 考
1 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 動植物全てに命があることに気づくとともに、人の生命の大切さに気づく。 ○ 赤ちゃんはお母さんのおなかの中で大切に育てられてきたことを知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 動植物を育てた経験 ○ へその緒の役割 ○ 胎児の成長 ○ 誕生の喜びと家族の愛情 	<p>【学級活動】 ②一ア</p> <p>○ 生活科の学習とも関連づける。</p>
8	<p>現在は様々な家族の形があり、どの家族も理解し合い協力し合って楽しく生活していこうとしてい</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 家族と一緒にしたことや手伝いなどについて振り返る。 ○ 家庭で自分ができることを見つけ、練習する。 	

<p>ることに目を向けさせる。 また、家族の一員として自分のできることがわかり、進んで役割を果たそうとする意欲を育てる。</p>	<p>○ 家族のために進んでできることを考え、自分のことは自分で行おうとする意欲をもつ。</p>	<p>【生活科】 ②—ア ②—エ</p>
--	--	------------------------------

<p>1 (本時)</p>	<p>どのようにして水俣病が発生したのか、その原因や構造を理解する。また、今の水俣の海はきれいであり、海も魚も安全であることを知り、故郷の環境を大切にすることを育てる。</p>	<p>○ 水俣病発生の構造 ○ 水俣病の原因 ○ 現在の水俣の海や魚介類の安全 ○ 大切な郷土水俣</p>	<p>【学級活動】 ①—ア ③—ア</p>
-------------------	--	---	-------------------------------

(3) 本時の学習 (1/9)

ア 目標

自分は家族の愛情や期待の中で成長してきたことがわかり、生命を大切にしようという思いを持つことができる。

イ 展開

過程	主な学習活動	指導上の留意点	備考
導入 5分	1 家庭や生活科で植物や動物を育てた経験を話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 生命の大切さを感じ取らせる。 ○ 家庭で飼っている動物への愛情とともに、枯らしてしまったり人間の行為で生命を亡くす動植物がいることを知る。 ○ 話し合いがスムーズになるように、前もって日記や作文を書かせたり、アンケートをとったりしておく。 	資料1 アンケート結果など
展開 35分	2 赤ちゃんがお母さんのおなかの中でどんな風に育っていくか話し合う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 赤ちゃんはおなかの中でどのように大きくなるのだろう。 お母さんやかぞくの人たちは、どんなきもちなのだろう。 </div> (1) 母親と赤ちゃんはへその緒でつながっていることを知る。 (2) へその緒の役割を知る。	<ul style="list-style-type: none"> ○ へその緒は、お母さんと赤ちゃんをつなぐ大切な生命の綱であることを知らせる。 ○ 赤ちゃんがお母さんのおなかの中で育っていく様子を絵などで提示し、イメージしやすくする。 ○ お母さんから赤ちゃんへ・・・きれいな空気、栄養、病気にならない力 ○ 赤ちゃんからお母さんへ・・・いらなくなった空気、いらなくなったもの 	資料2 お腹の中の絵
まとめ 5分	3 おなかの赤ちゃんに対する家族の気持ちについて考える。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 家族からの手紙については、2年生で使用する学校は重複しないように、ここでは教師の体験談や説話をとおして、赤ちゃんが生まれてくる時のお母さんや家族の気持ちを感じ取らせる。 	

4 主な資料等

性教育の手引き 熊本県教育委員会 平成19年3月

(4) 本時の学習 (1/1)

ア 目標

水俣病発生の原因や構造を知り、伝染しないことなどの基礎的な内容を理解するとともに、現在は水俣の海も魚も安全であることを知り、故郷の環境を大切にしようとする思いを持つことができる。

イ 展開

過程	主な学習活動	指導上の留意点	備考
導入 5分	1 現在の水俣湾の様子から、美しい水俣の様子を知る。	○ 「心ゆたかに水俣」(目次裏面の写真やP1～2)を使って、現在の美しい水俣の様子を見せる。 ○ この美しい水俣の海で、昔悲しい出来事が起こったことを知らせる。	心ゆたかに水俣
展開 35分	2 水俣病について知る。 みなまたでどんなかなしいできごとがあったのだろう。 (1) 水俣病の発生でどのような出来事が起こったかを知る。 (2) 水俣病発生の構造を知る。 3 現在の水俣が行っている環境再生についての取組を知る。	○ 水俣病の主な症状について知らせ、多くの人が亡くなったこと、今でも苦しんでいる人がいることを知らせる。また、患者さんとともに、かけがえない家族も苦しんでいることを考えさせる。 ○ 「心ゆたかに水俣」を参考に、図を使って食物連鎖によって人間の体内に入ったことを理解させる。 ○ 魚介類を食べたことが原因であり、決して伝染しないことをおさえる。 ○ 水俣病の教訓を生かした環境再生の身近な取組を知らせるとともに、現在の水俣の海は美しく安全であることをおさえる。	心ゆたかに水俣(P4参照) 資料3 水俣病発生の仕組みと原因 心ゆたかに水俣(P19～参照)
まとめ 5分	4 感想を出し合う。	○ 水俣病を初めて知った児童が多いと思われるので、感想の中で誤った認識があった場合は訂正し、正しい知識をもたせる。 ○ 水俣病の教訓を生かした取組を行い、美しい海や人々の絆を再生する「故郷水俣」を大切にしようとする人たちがいることを説明する。	

4 主な資料等

心ゆたかに水俣 平成19年3月31日発行 編集・作成 水俣市教育委員会

資料 1

<「たいせつないのち」 事前アンケート>

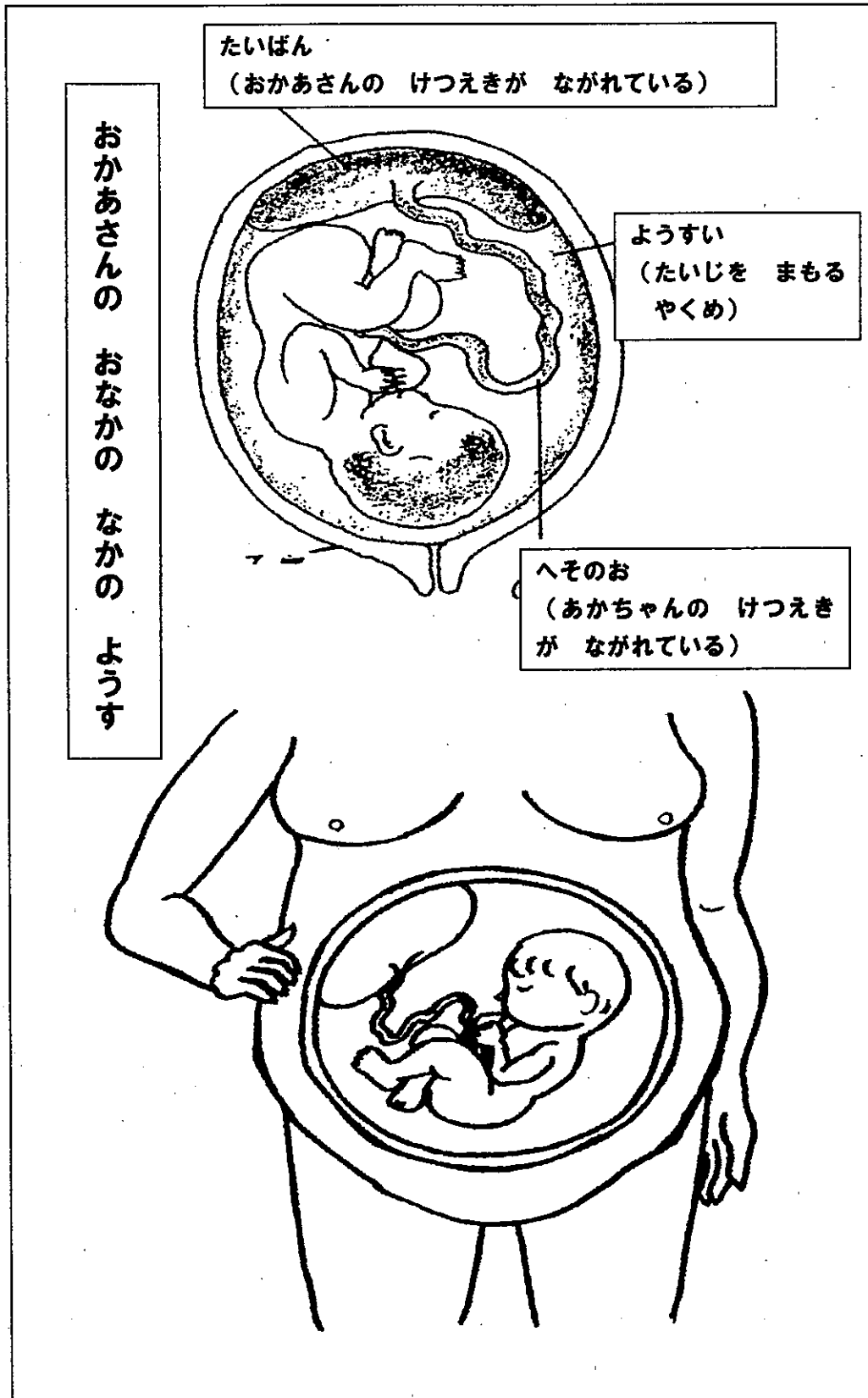
- 1 あなたは どんな いきものを そだてたことが ありますか。
そだてているときは どんな きもちでしたか。

- 2 あなたは おかあさんの おなかのなかで おおきくなりました。
おかあさんの おなかのなかで、どんな ものを もらって おおきくなったと
おもいますか。

資料2 お母さんのおなかの中

「性教育の手引き」 67ページ 平成19年3月 熊本県教育委員会 作成

※説明の言葉は、1年生用にやさしくしています。

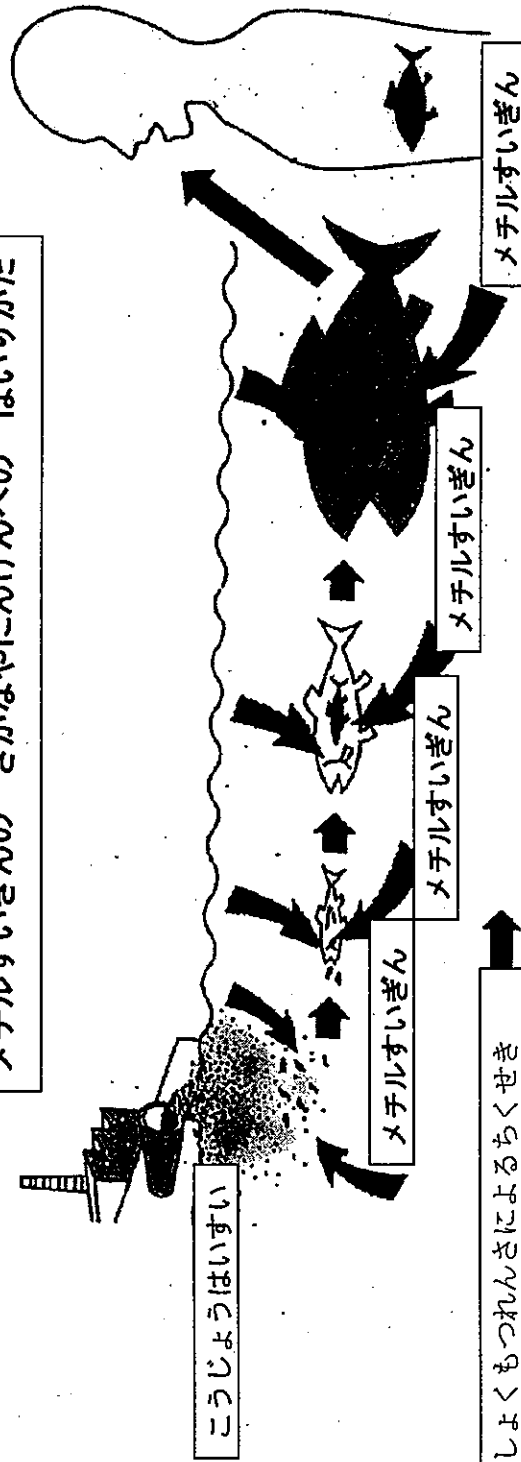


※説明の言葉は、1年生用にやさしくしています。

まちがえないで！ みなまたびようは でんせんしないんです

みなまたびようは チンがながした メチルすいぎんにおせんされた さかなやかいやえびなどを
たべたことが げんいんで おこったのです。
さわったりかかっていたりして うつることは ぜったいに ありません。

メチルすいぎんの さかなやにんげんへの はいりかた



みなまたびようが おこる しくみ

こうじょうはいすい → プラシクトン → ちいさいさかな → おおきいさかな → にんげん
(メチルすいぎんがはいっていた)

事例2 (小学校2年生 生活科): 「もっと知りたいな町のこと」
 ～生命の大切さ・自然を大切に作る心の育成～

1 本事例の目的及び概要

近年、児童を取り巻く社会や自然の環境が大きく変化してきている。その結果、自然に直接触れる経験が極めて少なくなってきたことや、生命の尊さを実感できていない児童がいるという状況が生じている。(小学校学習指導要領解説 生活編)

そこで、2年生の生活科における「自らの生活を豊かにしていくために低学年の時期に体験させておきたい活動に関する内容」の一環として、水俣の海(グリーンスポーツなど)で磯遊び等の体験的な学習を実施する。海の小動物と実際に触れ合うことで、生命の大切さや不思議さを学ぶことができる。

また、現在はきれいな水俣の海の様子を観察することで、「環境モデル都市づくり宣言」の中の、生命の基盤である海、山、川を大切に守り、次の世代に引き継いでいく取組をしていることを感じ取らせるとともに、市民一人一人が責任を持って環境再生や環境保全に努力していかなければならないことを感じ取らせることができる。

2 留意点

- 生活科における内容の(5)の活動と関連して実施する。
- 水俣病学習を中心とした環境学習など他教科、領域との関連を図っていく。また、第3学年社会科の学習内容とも関連を図っていく。
- 「磯遊び」が可能な場所は、グリーンスポーツ、環境センター、湯の児などがある。移動手段として、公共交通機関やスクールバスなどの利用が可能であるが、特に目的地までの交通安全や目的地での事故防止等、安全面における配慮を十分に行う。
- できるだけ多くの引率者で指導することが望ましいので、学校応援団等の活用も考慮する。
- 学習発表会等において、地域の人や保護者の前で「磯遊び」で経験したことや「磯遊び」をとおして考えたことを発表することで、さらなる活動の充実を図る。また、発表に対する感想などを聞くことで、自分たちが住む水俣のよさを再認識させる。

3 学習の進め方

(1) 単元(領域)の目標

秋のまちを自分なりの目的をもって探検し、まちの自然などに親しみをもってかわり、調べたり、体験したり、教えてもらったりすることを通して、まちのよさに気付くとともに、愛着をもつことができる。

(2) 指導計画(12時間取り扱い)

時間	目 標	学習内容及び活動	備 考
4	自分たちのまちの様子に関心をもち、秋のまち探検の計画を立て、目的をも	○ 町探検の計画を立てる。 (磯遊びの計画を行う。)	① ーウ ① ーエ ① ーオ

	って意欲的に調べたり観察したりできる。	○ 探検に出かける。 (本時) (磯遊びを行う)	
4	調べたり観察したりしたことを整理し、情報を交換する活動をとおして、水俣の海の様子について考えをまとめ、自分の住んでいるまちに愛着を持つことができる。	○ 磯遊びで観察したことやわかったこと等をカードに記入する。(観察カードにまとめる) ○ 各グループの情報を交換したりする。 ○ 活動をとおして感じたことや思ったことをカードに書き加える。	①—ウ ①—エ ①—オ
4	秋のまちについての自分の思いが友だちに伝わるように工夫し発表することができるとともに、まちのよさに気付くことができる。	○ カードに工夫してかき足したり、発見したことや調べたこと、体験したことや教えてもらったことをまとめたりする。 ○ 学習発表会等で発表し、感想交流を行う。	①—ウ ①—エ ①—オ ③—エ

(3) 本時の学習 (4 / 12)

ア 目標

自然(海)の様子を観察し生命に具体的にふれる活動をとおして、海の生命の存在とともに、身近にある自然(海)の素晴らしさに気づくことができる。

イ 展開

時間	主な学習活動	指導上の留意点	備考
導入 3分	1 磯で活動する時に注意することを聞く。	○ 注意点や約束を分かりやすく説明する。特に次の点に注意させる。 ・班ごとに活動すること。 ・安全面に気をつけること。 ・小動物の命を大切にすること。	サンダル 濡れてもいい服装
展開 37分	2 班ごとに自分たちの計画に従って、活動をする。 (1) 活動班で協力して小動物を探す。 (2) 小動物を観察する。 3 観察したり発見したりしたことをカードにかく。	○ 事前に活動内容を具体的に指導する。 ・活動箇所(危険な岩や牡蠣殻の有無などに考慮して場所をあらかじめ決定しておく) ・危険動物などを再度確認する。 ○ たくさんの小動物を発見し、その様子を観察することで、たくさんの命が生まれ、育まれていることを感じるとともに、海の素晴らしさを体感させる。 ○ 気付き等を簡単に記入できるようにカードを用意しておく。	カード バインダー 観察用の水槽等
まとめ 5分	4 人数及び安全確認をして、磯から上がる。 (1) 班ごとに人数を確認する。 (2) 小動物を逃がす。	○ 人数確認を確実にを行うとともに、怪我などしていないか、健康面でも確認する。 ○ 捕獲した小動物は、観察後リリースすることを確認する。その際、自分の命も生きものの命も大切にすることを指導する。 ○ 観察しての感想等を発表させる。	

4 主な資料等

○心ゆたかに水俣 (水俣地域資源マップ)

○小学校学習指導要領解説 生活編

事例3 (小学校低学年 学級活動): 「ふれあい集会をひらこう」
 ～水俣病との出会い・水俣病についての基本的な知識・理解～

1 本事例の目的及び概要

水俣病の患者さんとの交流をとおして、水俣病の患者さんの思いに触れるとともに、水俣病についての基礎的な理解を深めることを目的として実施する。

水俣市には、水俣病の患者さんが数多く生活されているものの、子どもたちはその患者さんと日常触れ合う機会は少ない。

そこで、患者さんの話を聞いたり、一緒に遊んだりするような交流の機会を設けることで、患者さんの顔や名前を知り、親近感を持つことができ、町中で出会ったときに、声をかけたり、挨拶したりすることができるようになる契機ともなる。このように、ふれあいの機会を持つことは、子どもたちにとって水俣病に対する理解を深めることにつながると考える。

2 留意点

- 交流先については、各学校の実態や年間計画等に応じて決定する。
 (例: 水俣病の患者さん、患者さんの家族、胎児性水俣病の患者さん、関連施設など)
- 生命の学習(1年生)や磯遊びの学習(2年生)との関連を十分に図っていく。
- 「こどもと学ぶ水俣病(水俣病のポイント学習)」(水俣病資料館ホームページ資料)などを参考にしながら水俣病について2年生にもわかりやすいように説明する。
- 保護者の参観案内を学級通信等で行い、水俣病学習を理解してもらう機会とする。

3 学習の進め方

(1) 単元(領域)の目標

- 水俣病についての正しい理解を深めるとともに、水俣病の患者さんとの交流をとおして、患者さんの思いや願いを知り、患者さんの存在を身近に感じることができる。
- 患者さんの思いや願いに共感し、自分自身の生き方を考えることができる。

(2) 指導計画(2時間取り扱い)

時間	目 標	学習内容及び活動	備 考
1	水俣病について正しい理解を深める。	○ 水俣市で水俣病という病気が発生したことを確認する。また、水俣病によりたくさんの人たちが亡くなったり、苦しんだりしていることを理解する。	①—ア ①—イ
1	ふれあい集会を実施し、患者さんの思いや願いを知り、親近感を高める。	○ 水俣病の患者さんとの交流を実施し、ともに触れ合う中で、患者さんの思いを聞きながら患者さんの気持ちを理解する。	②—ア ②—イ ②—ウ ①—ア

(3) 本時の学習 (2 / 2)

ア 目標

水俣病の患者さんの生活の様子、思い、願いを聞き、交流する活動をとおして、水俣病の患者さんについての理解を深め親近感を高めることができる。

イ 展開

時間	主な学習活動	指導上の留意点	備考
導入 5分	1 開会 (1) 拍手で患者さんを迎える。 (2) 始めの言葉を代表児童が述べる。 (3) 患者さんの名前を知る。	○ 前もってできる限り子ども主体で会を運営できるように指導しておく。	マイク 椅子 黒板
展開 35分	2 交流 (1) 患者さんのお話、クイズ (2) 質問タイム (3) ゲーム (4) 一緒に歌を歌う。	○ 聞き取りにくいところがあれば必要に応じて教師が補足するなど、患者さんの思いが児童に伝わるように配慮する。 ○ 質問は前もって考えておくだけでなく、話を聞いて生じた疑問などを取り上げ、患者さんへの理解が深まるようにする。 ○ 話を聞くばかりではなく、患者さんと一緒にゲーム(例:サッカーじゃんけん、名刺交換)などをすることで、さらに親近感を持つるようにする。 ○ 患者さんとも一緒に歌い、一体感を高める。(例:校歌、海など) ※ 集会の内容については、実態等を考慮して、事前に交流先と詳細な打ち合わせをしておく。	名刺
まとめ 5分	3 閉会 (1) お礼の言葉を述べる。 (2) 患者さんと握手をして別れる。	○ 握手をすることでスキンシップを図り、交流会が児童の心に残るようにする。 ○ 教室に帰ってから、今日の交流をとおしての感想を記入させ、患者さんから学んだことなどを明確にさせる。	

4 主な資料等

「こどもと学ぶ水俣病 (水俣病のポイント学習)」

事例4（小学校3年生 社会科）：小单元「市の様子」

1 本事例の目的及び概要

本小单元は、前单元の学校のまわりの様子の学習を活用し、水俣市全体の様子を調べ、水俣市の特色ある地形、土地利用の様子、主な公共施設の場所とはたらき、交通の様子、古くから残る建造物などに気づかせ、地域の様子は場所によって違いがあることについて考えさせることをねらいとしている。子どもたちは水俣市の様子について調べるなかで、水俣の豊かな自然についても理解を深めることが可能となる。さらに、水俣市のキャッチフレーズや水俣市じまんベスト3を考える活動をとおして、水俣市の様子について多面的に見たり考えたりする能力を育成し、水俣市に対する誇りや愛情の基礎を育てようとするものである。

2 留意点

問題解決的な学習展開を心掛け、各過程において特に次の点に留意し、指導にあたる。

[導入]

- 水俣市の航空写真（グーグルアースなど）を活用し、水俣市の位置や校区の位置をつかませる。
- 水俣市で知っている場所や建物を航空写真（グーグルアースなど）でさがし、水俣市の広がりの様子に気づかせ、水俣市についてくわしく調べる意欲を持たせる。

[展開]

- 水俣市の土地利用や地形、他の小学校のまわりの様子、観光スポット、水俣市の特徴的な場所や建物について調べるようにする。
- 副読本「心ゆたかに水俣」や観光パンフレット・観光マップを活用し、地図に書き込ませる活動を設ける。
- 調べたことや学習したことを確かめるために、バスで市内の主な場所を見学する活動を取り入れることも考えられる。

[まとめ]

- 商工観光課や環境モデル都市推進課の方の話聞く活動を取り入れ、水俣市を見つめ直す視点を広げ、「水俣市はどんな市か」を考えさせる。
- 水俣市じまんベスト3を決めさせることで、水俣市の特色や様子を簡潔に表現できるようにする。

3 学習の進め方

(1) 小单元の目標

- 市の特色ある地形、土地利用の様子、主な公共施設の場所とはたらき、交通の様子、古くから残る建造物の場所と様子や、場所によって地域の様子には違いがあることについて考え、自分たちが日々生活している市に対する誇りや愛情をもつ。
- 市の様子から学習問題を見だし、観察・調査したり地図やその他の資料を活用したりして調べたことを、地図記号や方位を活用して白地図にまとめるとともに、場所による地域の様子の違い、特色やよさを考えて、適切に表現する。

(2) 指導計画 (1 1 時間取り扱い)

時間	目標	学習内容及び活動	備考
1	航空写真を見て、校区の位置を確かめるとともに、水俣市の様子に関心を持つことができる。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 水俣市や校区の位置を航空写真で確かめる。(グーグルアース等の活用) ○ 水俣市の航空写真や水俣市のいろいろな場所の写真を見て、気づいたことや感想を発表しあい、疑問に思ったことをもとに学習課題をつくる。 	①-オ
		水俣市の中で自分たちの校区と似ているところや違うところを見つけよう	
8	水俣市全体のおおまかな様子をつかむことができる。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 水俣市の航空写真や地図を見て、地形や土地利用について気づいたことを話し合う。 ○ 平地や山地の広がり、川や海、建物や家の多いところ、おもな道路などについて地図に書き込む。 	①-オ
	水俣市にある他の小学校のまわりのおおまかな様子をつかむことができる。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各校区の写真からどの学校の校区か話し合う。 ○ 自分が選んだ他校のまわりの航空写真や地図(心ゆたかに水俣P59～P84活用)を見て、自分たちの校区と似ているところや違うところをさがし、地図に書き込む。 	①-オ
	水俣市の観光スポットについて調べ、分かったことをまとめることができる。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自然の美しい場所や人がたくさん集まる場所、歴史を感じさせる場所について話し合う。 ○ 湯の児温泉、無田湿原、棚田などについて調べ、分かったことを地図に書き込む。 	①-オ
	水俣市にある特徴的な場所や建物などについて調べ、分かったことをまとめることができる。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 水俣市の歴史的な建造物や特徴的な場所・施設(環境や福祉に関するもの)について話し合う。 ○ エコパーク、環境センター、エコタウンなどについて調べ、分かったことを地図に書き込む。(心ゆたかに水俣P49・50・53・54活用) 	①-エ
	水俣市の外観をつかむ。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地図に表した場所を中心に、実際に見て回る。 ○ 土地利用、地形、産物、観光地等について新たな気づきをまとめる。 	①-オ
2 (本時 2/2)	水俣市の取組を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ○ エコパークなどの水俣市の特徴的な場所について環境モデル都市推進課、自然を生かした観光地について商工観光課の方の話を聞く。 ○ 「水俣市はどんな市」かについて話し合い、一人一人がキャッチフレーズにまとめる。 	①-エ
	前時までには調べたり、聞いたりして分かったことから、水俣市の特色をまとめる。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 水俣市のすてきな特色について考える。 ○ 水俣市じまんベスト3を班で話し合っ決めて決める。 ○ 他の班の発表と比べる。 	②-エ

(3) 本時の学習 (11/11)

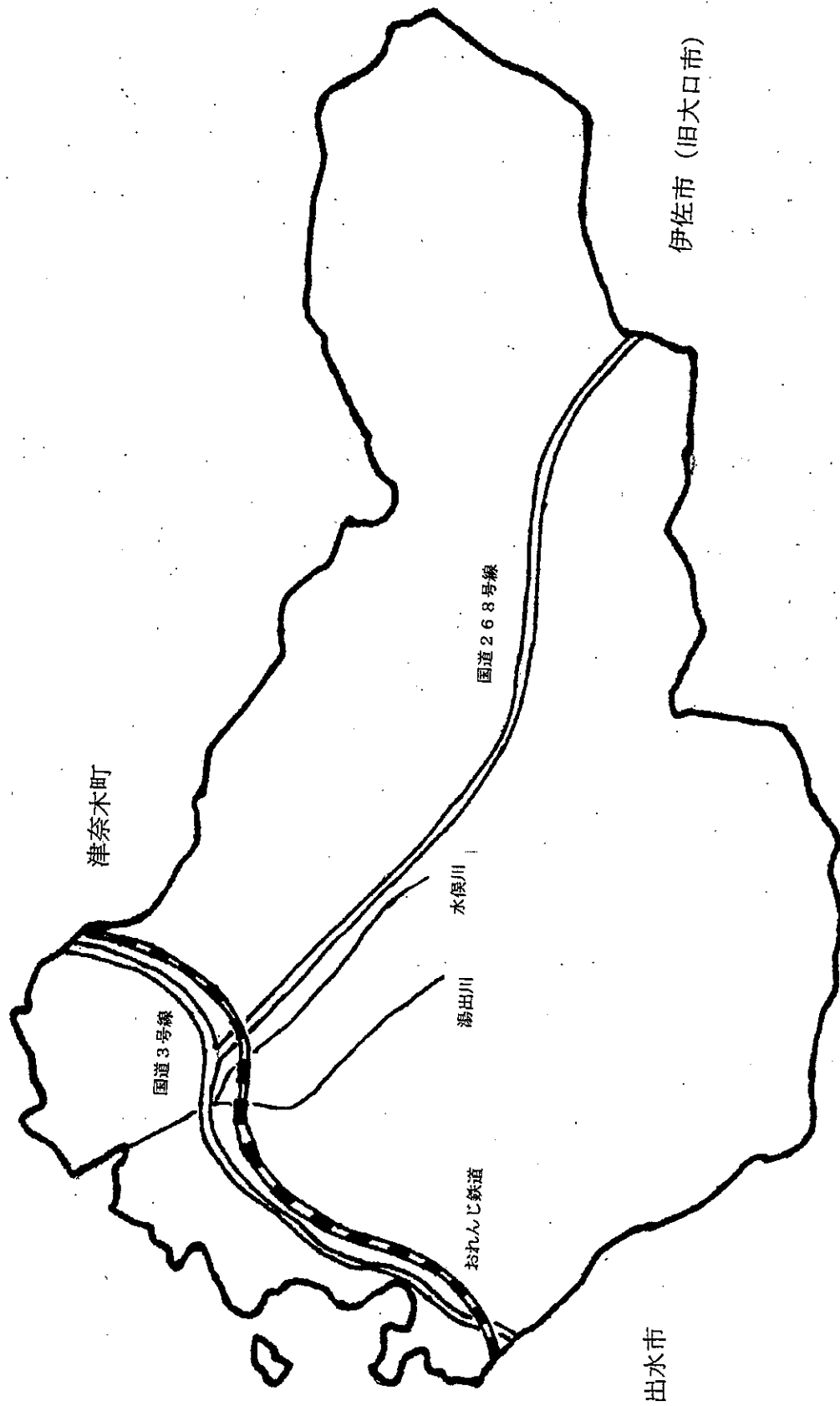
ア 目標

水俣市の地形や土地利用の様子などについて、前時までに調べたり、聞いたりして分かったことから、水俣市の特色をまとめることができる。

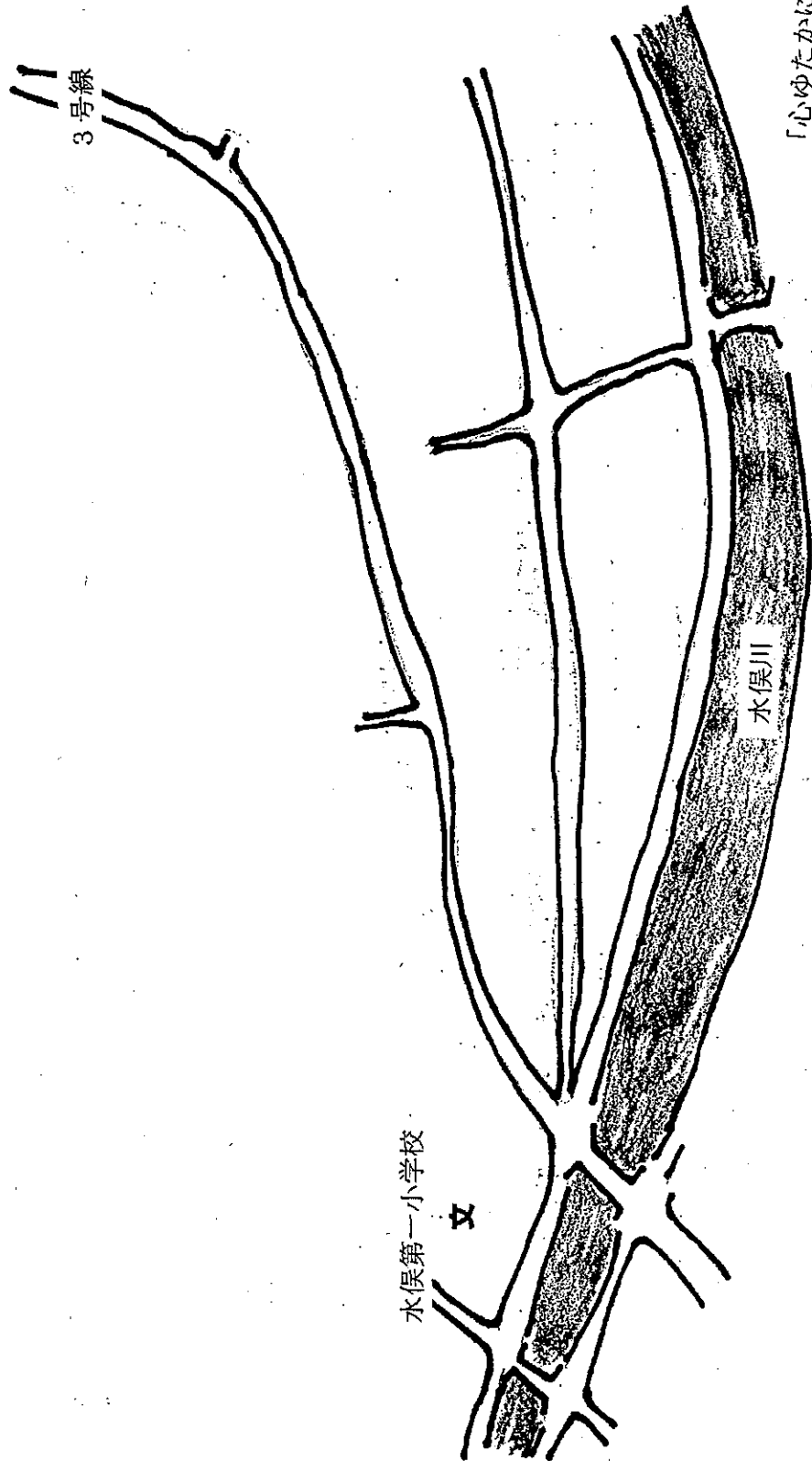
イ 展開

時間	主な学習活動	指導上の留意点	備考
導入 7分	<p>1 前時に作ったキャッチフレーズを確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自然豊かな水俣 ・ 環境を大切にする水俣 ・ おいしいものいっぱい水俣 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 前時作成のキャッチフレーズを紹介しながら分類し、どんな場所を選べばよいかの視点を持たせる。 ○ 学習課題を確認する。 	前時の学習シート
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> 水俣市じまんベスト3を決めよう。 </div>			
展開 33分	<p>2 水俣市で紹介したい場所ベスト3について話し合う。</p> <p>(1) 個人で選んだベスト3を確認する。</p> <p>(2) 班でベスト3を決める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 美しい海を見てもらいたいし、バスも通っているから、湯の児温泉 ○ 一カ所に集まり、環境を大切にしているのをみんなに伝えたいから、エコタウン ○ 水俣病について知ってもらいたいし、美しい海も見ることができるから水俣病資料館など <p>(3) クラスのベスト3を決める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 家庭学習であらかじめ考えさせておくようにし、キャッチフレーズと見比べる中で、変更してよいことを指導する。 ○ 選んだ理由をしっかりと書くように指導しておく。 ○ 理由を大切にしながら、班で3つ選び出すことを伝える。 ○ 決まった場所は、短冊に書かせる。 ○ これまでの学習を生かして、水俣市について複合的な視点から見るできるように話し合わせる。 	短冊
まとめ 5分	<p>3 決まったことをノートにまとめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ クラスのベスト3の場所を記入させる。理由は自分の言葉で書かせる。 ○ ベスト3に入らなかったもので、おすすめの場所があったら、場所と理由を4番目に記入させる。 	

水俣市全図



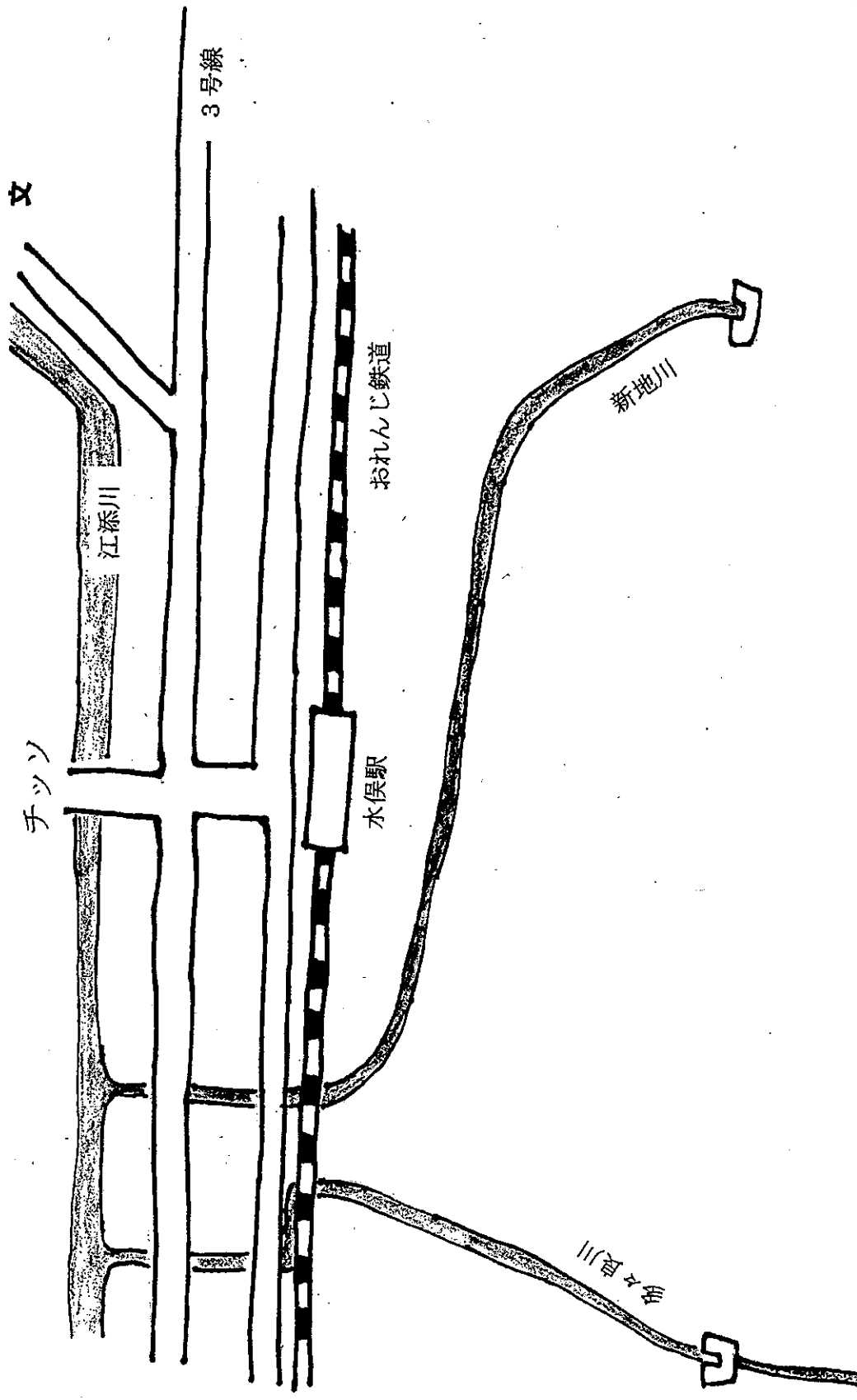
水俣第一小学校のまわり（陣内地区）



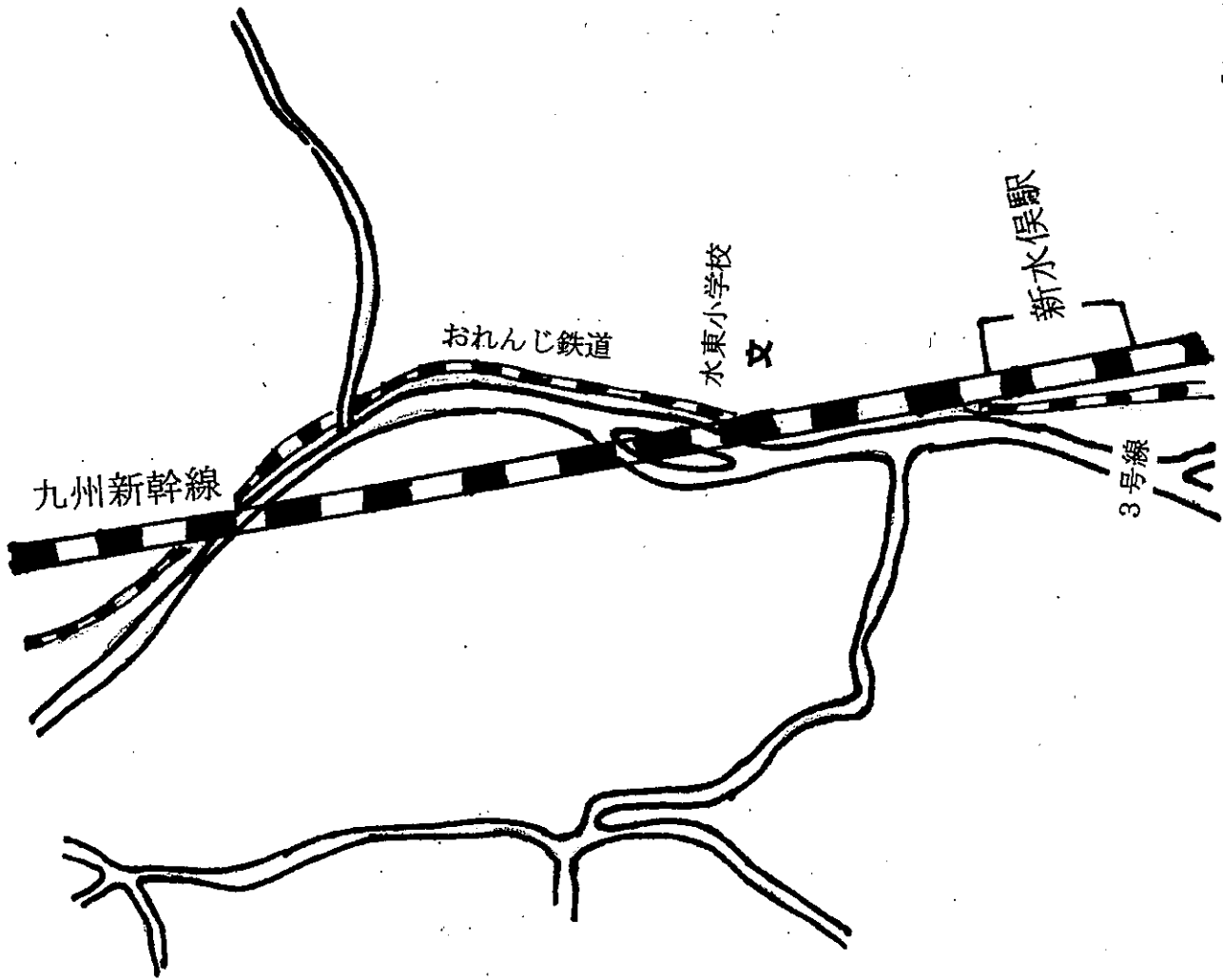
「心ゆたかに水俣」P59

水俣第二小学校のまわり (昭和町～山手町)

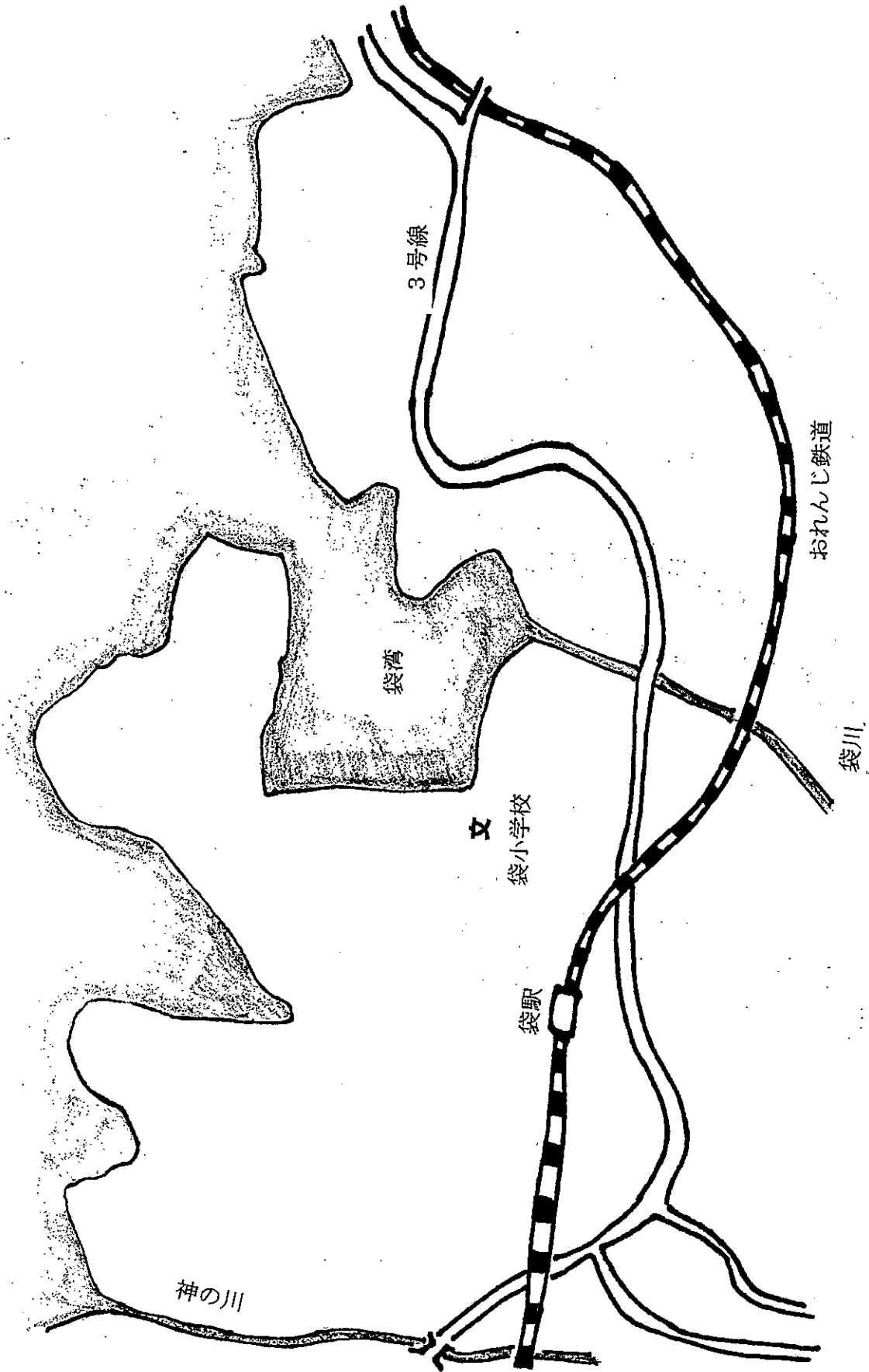
水俣第二小学校



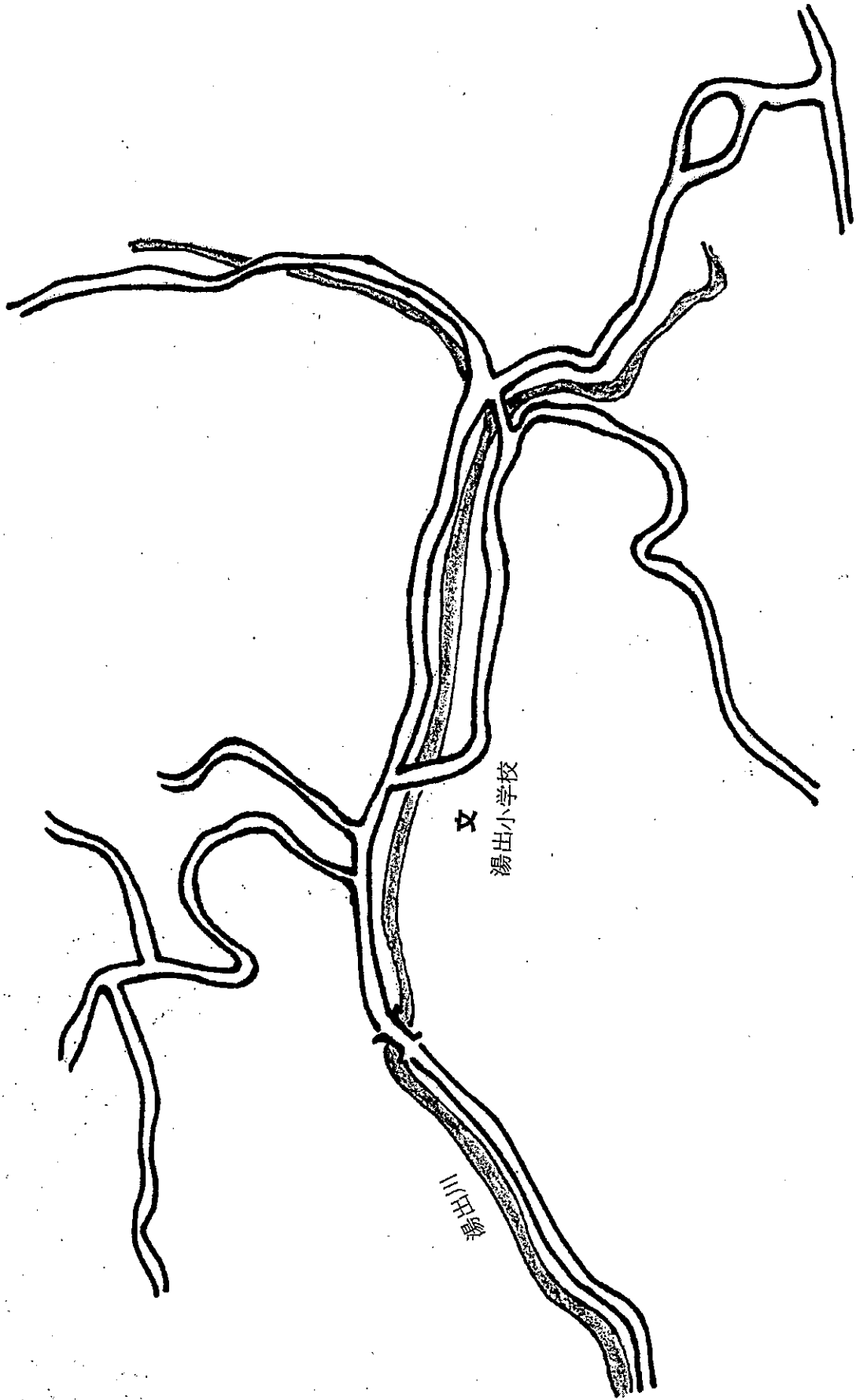
水東小学校のまわり



袋小学校のまわり (袋地区)



湯出小学校のまわり

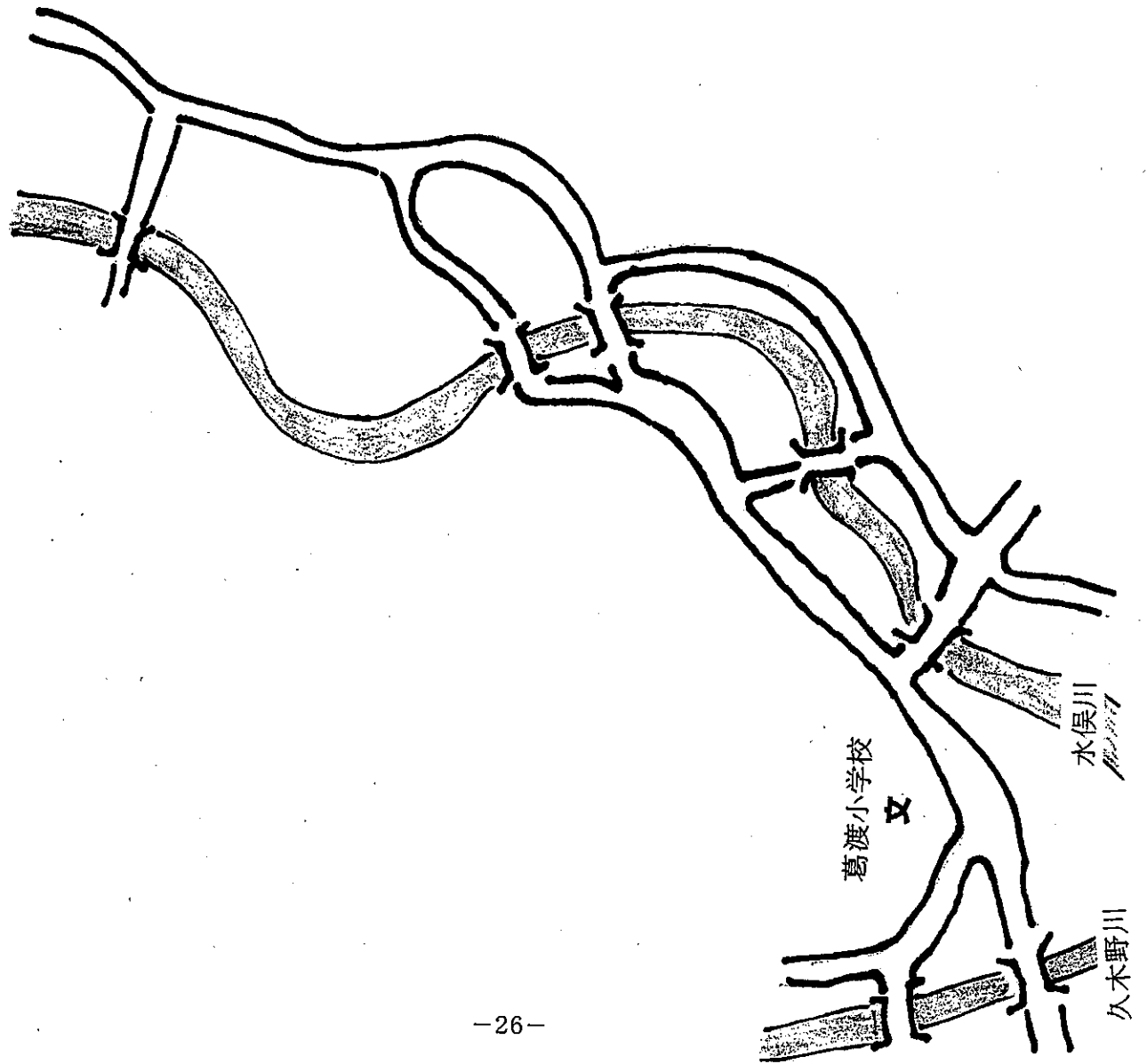


文
湯出小学校

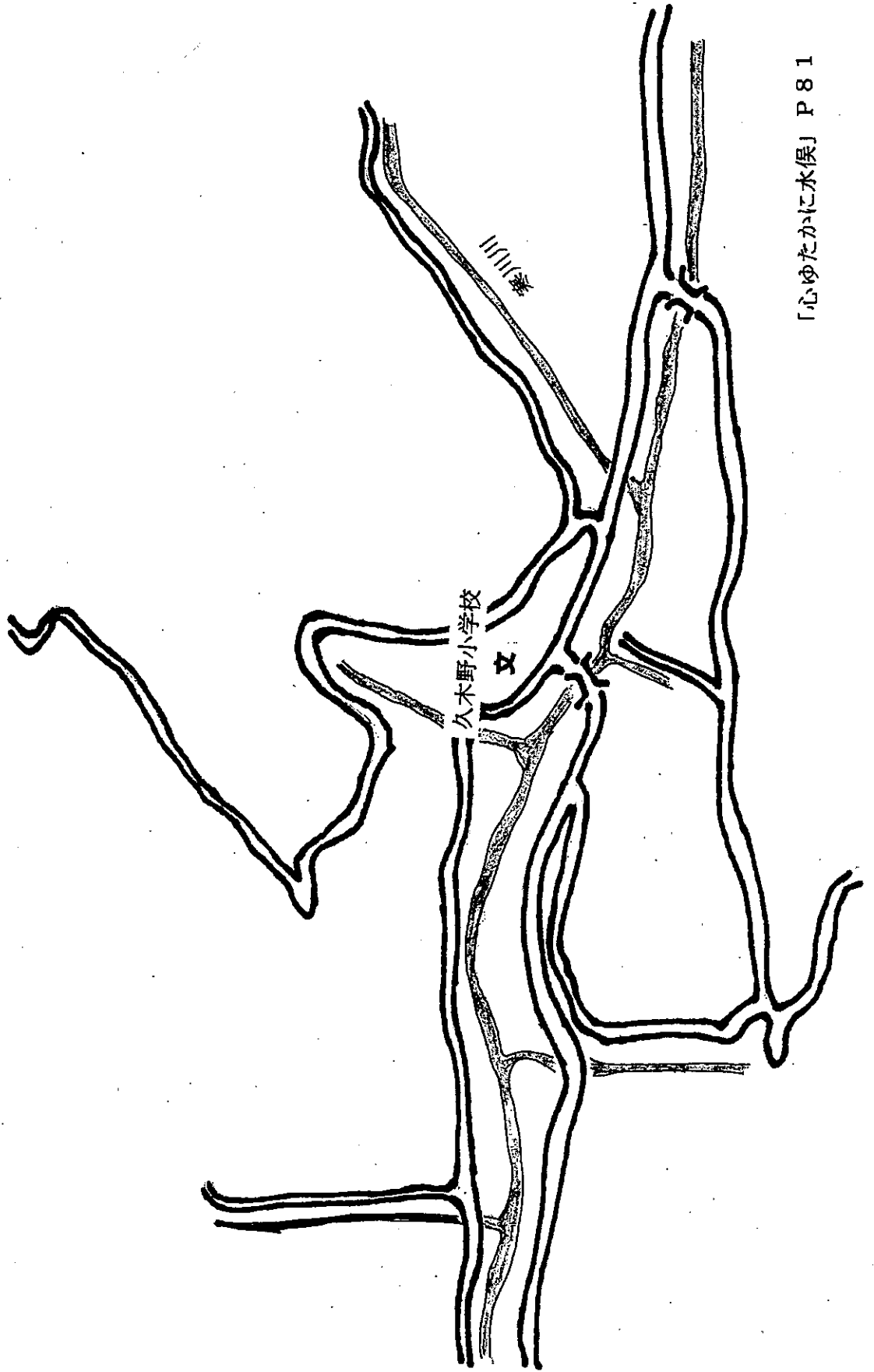
川田線

「心ゆたかに水俣」 P 7 3

葛渡小学校のまわり



久木野小学校のまわり



「心ゆたかに水俣」 P 8 1

事例5 (小学校4年生 社会科): 小単元「ごみのしよりと利用」

1 本事例の目的及び概要

水俣病の教訓を基に、水俣市を環境モデル都市として創りあげていこうとしている水俣市の取組について理解する。特にごみの処理を中心に、副読本の写真や図、統計などの資料を活用して調べながらごみの処理は計画的、協力的に進められていることを理解する。さらに、ごみ分別の体験をとおして、ごみの減量やリサイクルなど自分たちにできることを考え、進んで取り組もうとする態度を育てることを目的とする。

2 留意点

- 健康で住みよいくらしを守るために、廃棄物の処理が欠かせない重要な問題であることを理解するとともに、一人一人に社会の一員としての自覚を持たせるようにする。
- ごみ処理やリサイクルの事業が、環境保全に重要な役割を果たしていることについて理解することで、自分は何ができるのか、どう行動していけばよいのかということを考え、生活に生かしていこうとする態度を育てていくように配慮する。
- 単元の学習に入る前に、ゴミの分別を実際に体験させ学習意欲を高めておく。

3 学習の進め方

(1) 単元(住みよいくらしと環境)の目標

- ごみの処理や有効利用と自分たちの生活や産業とのかかわりや、これらにかかわる対策や事業が計画的・協力的に進められ、地域の人々の健康な生活や良好な生活環境の維持と向上に役立っていることを自分たちの生活と関連づけて考える。ごみの減量やリサイクルなど自分たちに協力できることを考え、進んで取り組もうとする。
- ごみの処理や有効利用の諸活動から学習問題を見だし、施設・設備を調査、見学したり資料を活用したりして調べたことを白地図や作品にまとめる。

(2) 指導計画(16時間取り扱い)

時間	目標	学習内容及び活動	備考
2	くらしの中から出るごみに関心を持ち、意欲的に調べる。	○ 家や学校から出されているごみの種類や量を調べて、気づいたことや疑問を発表し合い、学習課題をつくる。 (心ゆたかに水俣P25・26活用)	②-エ
2	ごみステーションや収集車の様子から、ごみの収集のしくみや出し方のきまりを理解できる。	○ ごみステーションでのごみの分別のようすやごみ収集車を観察し、収集のしくみや出し方のきまり、収集したごみの行き先など、わかったことをまとめる。 (心ゆたかに水俣P28~30活用) ○ 学校から出されるごみを、実際に「心ゆたかに水俣」(P29・30)を参考にしながら分別する。	①-エ

2	環境クリーンセンター、リサイクル施設で何を調べればよいかを考えて、適切な見学の計画を立てることができる。	○ 環境クリーンセンター、リサイクル施設に行つて見たいことや知りたいことを整理して、見学の計画を立てる。 (心ゆたかに水俣P 3 1・3 2活用)	
1	環境クリーンセンターの見学を通して、可燃ごみの処理のしかたやその工夫を理解できる。	○ 可燃ごみの処理方法を実際に見学して、しくみや工夫について調べる。	①-エ ③-エ
2	リサイクル施設では、資源になるごみを集めて、再生したり再利用できるようにしたりしていることを理解できる。	○ リサイクル施設を見学したり、リサイクルにかかわる法やきまりについて施設の人に話を聞いたりして、資源ごみがどのように再利用されていくのか調べる。 (心ゆたかに水俣P 3 3,3 4)	①-エ ③-エ
1	リサイクルのしくみによって、ごみの減量や資源の有効利用が行われていることを考えることができる。	○ 具体的資料をもとに、リサイクルをすることで、資源の有効活用がどのように図られるのか実感的にとらえ、その有効性を考える。	①-エ ③-エ
2	市が資源を大切に、環境を守るために取り組んでいる事業の様子を理解できる。	○ 地域の人々の環境を守る取り組みについて調べ、わかったことをまとめる。	①-エ
2	昔と今のごみ処理のよい点、よくない点を判断し、ごみを出さないことの大切さについて考えることができる。	○ ごみの処理のしかたが昔と今ではどのように変わってきたかを調べる。 ○ 他の地域のごみ処理と比べて、今後のごみ分別のあり方を考える。	③-ウ
2 (本 時 1/2)	ごみを減らしたり資源を有効に使うために、自分たちにできることや社会で取り組むべきことを判断することができる。	○ これまでの学習を振り返り、住みよいくらしのために自分たちには何ができるのか考え、考えを話し合う。	②-エ ③-オ

(3) 本時の学習(15/16)

ア 目標

ごみの問題について話し合ったり、ゲストティーチャーの話を聞いたりしながら、ごみの減量のために自分たちができることを考えることができる。

イ 展開

過程	主な学習活動	指導上の留意点	備考
導入 5分	1 本時のめあてを確認する。	○ 前時までの学習を振り返り、本時のめあてを確認する。	めあてを書いた紙
展開 35分	ごみをへらすために個人、家庭、みんなでできることは何だろう。		
	2 ごみを減らすための工夫について考え、カード(短冊)に書く。	○ ごみを減らすためのさまざまな取組を思い起こさせ、それをふまえて、家庭や個人、みんなで取り組むことができる方法は何か考えるように助言する。	カード(短冊)
	3 ごみを減らすための工夫について発表し、分類する。 (1) 個人の考えを黒板にはり発表する。 (2) 出された考えを分類する。	○ 発表を聞き、気がついたことや質問したいことを発表させる。 ○ 「個人でできること」「家庭でできること」「クラスまたは学校全体でできること」の視点で分類させる。	
	4 発表したことについて、環境モデル都市推進課・環境クリーンセンターの方の話を聞く。	○ ごみの減量について出された発表について専門的な立場から助言をいただくとともに、環境をよりよくするための思いにふれさせ、実践への意欲につなげていく。	
	5 助言をもとに話し合う。 (1) ごみを減らすために全体で実践するエコ宣言を決める。 ・校内放送で呼びかける。 ・みんなが〇〇するようポスターを描くなど。 (2) 個人、家庭で実践することを一人一人が決める。 ・鉛筆や消しゴムを最後まで使うなど。	○ 助言を参考に、ごみを減らすために全体で取り組むことを話し合わせ、エコ宣言としてまとめさせる。 ○ 個人、家庭で実践することを決めさせる。	ワークシート
まとめ 5分	6 本時の学習を振り返り、次時の学習内容を確認する。	○ ごみ減量に向けての実践活動に取り組む意欲を高めるようにする。	

4 主な資料等 心ゆたかに水俣(水俣市教育委員会)

資料 1

本時の学習シート

ごみのしよりと利用

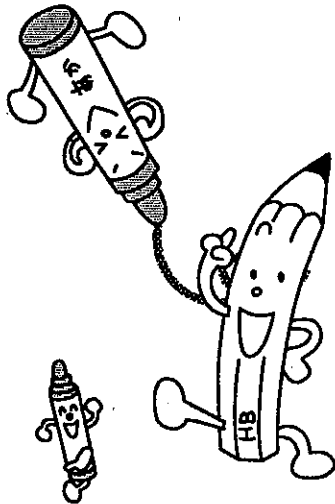
4年 組 名前()

めあて	ごみをへらすために、個人、家庭、みんなでできることは何だろう
-----	--------------------------------

1 ○年○組「エコ宣言」を決めよう

--

2 個人、家庭でごみをへらすためにやってみようと思うことを書こう。



個人で	
家庭で	

事例6 (小学校5年生 社会科): 小単元「環境を守るわたしたち」 (単元名「わたしたちの生活と環境」)

1 本事例の目的及び概要

水俣病は、高度経済成長を支えた産業発展と同時に水俣市及び周辺で起こった日本の公害の原点ともいわれる公害病である。水俣の人々は、この未曾有の被害を経験したからこその取組を積極的に行い全国に発信している。そして水俣市は、ごみの高度分別や水俣独自の環境ISO制度など、市民と協働で様々な環境政策に取り組んできたことが評価され、平成20年7月に国から「環境モデル都市」として認定された。

そこで、5年生の社会科において、水俣病の具体的内容及び環境再生に取り組んできた人々の様子について、副読本を中心に、地図・写真・統計などの資料を活用して調べていく。そして、公害から生活を守ることや環境に配慮することの大切さについて考えさせる。この学習を通して、私たちの生活と環境を守るために自分はどう行動すべきかを、自分自身や自分の生活とのかかわりをとおして考えさせることをねらいとするものである。

2 留意点

本単元は、新学習指導要領の次の内容を受けて設定している。ねらい達成のため、教材には水俣病を中心に取り上げ、一人一人の児童が水俣病の教訓を基に水俣市民としての誇りが持てるよう計画的に指導する。

○ 内容

- (1) 我が国の国土の自然などの様子について、次のことを地図や地球儀、資料などを活用して調べ、国土の環境が人々の生活や産業と密接な関連をもっていることを考えるようにする。

ウ 公害から国民の健康や生活環境を守ることの大切さ

○ 内容の取扱い

- ウ ウについては、大気汚染、水質汚濁などの中から具体的事例を選択して取り上げる

3 学習の進め方

本単元は、公害から国民の健康や生活環境を守ることの大切さや、国土の保全などのための森林資源の働き及び自然災害の防止について理解し、国土に対する愛情を育てるようにすることを目標としている。本小単元「環境を守るわたしたち」については、水俣市がどんな取組を市民と協働して行ってきたか、水俣の人々はどんな思いを抱いているのかなどを、水俣市教育委員会発行の「心ゆたかに水俣」を副読本として有効に活用して調べたり考えさせたりする。

(1) 小単元の目標

身の回りの生活環境や公害に関心を持ち、産業の発展や都市化の進展にともなって生じた公害や、それらから国民の健康や生活環境を守る取組の様子を理解し、環境汚

染から健康や生活環境を守るためには、企業や行政の取組だけでなく、わたしたち一人一人の努力や協力が必要なことがわかる。

(2) 指導計画（小単元のみ記載。5時間取り扱い）

時間	目標	学習内容及び活動	備考	関連する副読本のページ
1 (本時)	水俣病について既習事項を出し合いながら課題を持って学習計画を立てるとともに、水俣病のあらましを理解することができる。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 水俣病について知っていることを出し合う。 ○ 出たことを分類・整理し、学習計画を立てる。 ○ 水俣病のあらましについて調べる。 	①—ア	3～4
1 (本時)	水俣病の発生により様々な差別が生じたことを理解し、公害から環境を守ることの大切さについて考えることができる。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 患者さんの症状や発症のメカニズムについて理解する。 ○ 水俣病差別について考える。 ○ 公害を防ぐために大切なことは何か、自分たちが環境を守るためにできることはどんなことかについて話し合う。 	①—イ ②—ア・イ ③—ア・イ	5～6
1	水俣病被害についての対策や取組について調べることができる。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 水俣病の運動やたたかいについて調べ、今も続いていることについて考える。 ○ 水俣病に関連のある施設について調べる。 	①—ウ・エ	7～13
1	水俣病の教訓を生かした取組を理解することができる。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 水俣病の教訓を生かして、水俣市がどのような街づくりを目指しているか調べる。 	①—エ ②—エ ③—ウ	19～22
1	環境ISOへの取組について調べ、自分にできることや発信できることを考えて表現することができる。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 環境ISOの取組について調べる。 ○ 自分たちでやれること、発信できることがないか等について考える。 	②—エ ③—エ・オ	41～54

(3) 本時の学習 (1/5)

ア 目標

水俣病について既習事項を出し合いながら課題を持って学習計画を立てるとともに、水俣病のあらましを理解することができる。

イ 展開

過程	主な学習活動	指導上の留意点	備考
導入 5分	<p>1 副読本P1の写真を見て、気付いたことを出し合う。</p> <p>2 本時のめあてをつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-top: 5px;"> 水俣の小学生として、水俣病のことをきちんと説明できるようになる。 </div>	<p>○ 水俣市が山と海の豊かな自然に恵まれた地域であることや、その海をとりまく悲しい歴史があったことを写真やイラストの吹き出し等から感じ取らせ、水俣病について学習していく意欲を持たせる。</p>	
展開 35分	<p>3 水俣病について知っていることについて出し合う。</p> <p>4 出た意見を整理しながら、単元の学習計画を立てる。</p> <p>5 副読本P3～4を読み、水俣病についてあらましを知り、ワークシートに整理する。</p> <p>(1) 副読本を読み、ワークシートに書き込む。</p> <p>(2) 調べたことを発表し合う。</p> <p>(3) 水俣病のあらましについて改めて確認する中で、思ったことや感じたことを話し合う。</p>	<p>○ 5年生なので、今までの水俣病学習の積み重ねがあると思われる。子どもたちから出た意見を、次のような観点で分類整理していきながら、一緒に学習計画を立てていく。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>①水俣病の起こり</p> <p>②患者さんたちの苦しみ</p> <p>③水俣病の運動やたたかい</p> <p>④水俣病に関係のある施設</p> </div> <p>○ まず、別添のプリントに整理させることで、水俣病に関する基礎知識を理解させる。</p> <p>○ 確認し終わった後で感想交流をし、自分たちを振り返らせる。</p>	プリント
まとめ 5分	<p>6 本時をまとめ、次時の予告を聞く。</p> <p>(1) 「公害」の原因と生じた結果について考える。</p> <p>(2) 次時の予告を聞く。</p>	<p>○ 「公害」を引き起こして被害を広げてしまったのも、今、環境再生へ努力しているのも人間であることに触れ、自分だったらどう判断して行動するか投げかけて、今後の学習への意欲づけをする。</p>	

(4) 本時の学習 (2/5)

ア 目標

水俣病の発生により様々な差別が生じたことを理解し、公害から環境を守ることの大切さについて考えることができる。

イ 展開

過程	主な学習活動	指導上の留意点	備考
導入 5分	1 P5の患者さんの手の写真を見て、思ったことを話し合う。 2 本時のめあてをつかむ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 水俣病患者さんの苦しみに一歩でも近づいて、公害から環境を守ることの大切さについて考えよう。 </div>	○ 激症患者さんの手の写真は子どもたちには衝撃的であろう。体の痛みはもちろんのこと、心の痛みもあったことにも触れながら、めあてを確認させる。	
展開 35分	3 副読本P5～6を読み、水俣病患者さんの症状や発症のメカニズムについて考える。 (1) 激症患者さんのこと (2) 胎児性患者さんのこと (3) 現在も普通に生活している患者さんたちのこと 4 本文や杉本栄子さんの話を読んで、水俣病差別について考える。 5 公害を防ぐために大切なことは何か、また、環境を守るために私たちにできることはどんなことかについて話し合う。	○ 副読本の写真や資料を活用しながら、激症の患者さんたちや胎児性患者さんたちの苦しみを理解させたい。また、今もなお病気に苦しめられながら生活しておられる患者さんの思いも補足する。 ○ 発症当時の差別や補償金等で受けたねたみ差別など、病気以外のことでも患者さんが苦しみ続けてこられたことについて、水俣病が奪ったものは何かを問うことでしっかり考えさせる。 ○ 公害により身体をむしばまれただけでなく、身内や地域のきずなが引き裂かれていった歴史を持つ水俣市民として、公害を防ぐ・環境を守るとはどういうことか話し合わせる。	
まとめ 5分	6 本時をまとめ、次時の予告を聞く。 (1) 患者さんの思いに触れたり、環境を守るということについて考えたりしたことについて、感想交流する。 (2) 次時の予告を聞く。	○ 本時の学習を振り返って感想を言うことで、考えを共有し合い確かなものにさせていく。	

4 主な資料等 「心ゆたかに水俣」 (水俣市教育委員会)

水俣病を学ぼう。水俣病に学ぼう。

～ 1 水俣病の起こり ～

1 次の [] に当てはまる言葉を書きましょう。

1	水俣病とは、① [] が有害な ② [] を ③ [] に流したことが原因で起きた ④ [] です。	① ② ③ ④
2	海にすむ ⑤ [] や ⑥ [] は、工場排水に含まれていた ⑦ [] に汚染され、それを知らずに食べていた ⑧ [] は、しだいに ⑨ [] になり、さらに ⑩ [] までも奪われたのです。	⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩
3	水俣の ⑪ [] を中心とした地域に、多くの ⑫ [] が発生しました。	⑪ ⑫

2 次の問いに答えましょう。

1	水俣湾で、いつごろから、貝などが死んだり海藻が育たなくなったりするできごとが現れ始めましたか。	
2	水俣病の公式確認日は、いつですか。	
3	発生当時、水俣病は、どのように誤解されていましたか。	
4	病気の主な症状は、どのようなものですか。	
5	昭和 31 年ごろから、水俣病は水俣湾の周辺で取れる魚や貝などを多く食べることが原因で発生することがわかったのに、被害が大きくなっていったのはなぜですか。	
6	昭和 34 年、熊本大学医学部の研究者が発表したのはどんなことでしたか。	
7	昭和 40 年に、似たような症状の病気が起こったのは、どこですか。	
8	国が正式に水俣病を公害と認定したのはいつですか。	
9	水俣病は、伝染する病気ですか。	
10	水銀には、どんな種類のものがありますか。	

水俣病を学ぼう。水俣病に学ぼう。

～ 2 患者さんたちの苦しみ ～

- 1 副読本「心ゆたかに水俣」5ページの写真を見て、どんなことを考えますか。

めあて

水俣病患者さんの苦しみに一歩でも近づいて、公害から環境を守ることの大切さについて考えよう。

- 2 水俣病が奪ったのは、「健康な体」だけでしょうか。副読本の本文（P6）や、杉本さんのお話から考えてみましょう。
- 3 水俣病が起こってしまったことや、原因がわかったのに対策が遅れて被害が広がっていったことなどから、公害を防ぐためには、どんなことが大切なのでしょう。あなたの考えを書きましよう。
- 4 「環境を守る」ために私たちができることは何でしょうか。

事例7（小学校6年生 総合的な学習の時間）：単元名「水俣病について 学んだことを新潟県の小学生に伝えよう！」

1 本事例の目的及び概要

水俣病の教訓を生かすために、水俣病に係る学習はこれからも継続して実施していく必要がある。また、学習を展開するうえで、児童生徒が受動的でなく、主体的に学ぶ必要があると考える。この「総合的な学習の時間」はそのような意味で、児童生徒の主体的な学びを可能にする時間の一つである。小学校最終学年で、これまで学習してきた内容に加えて、水俣病に対する疑問やもっと知りたかったことなどについて意欲的に調査活動をすすめ、課題解決を行い、発信するとともに、友だちや自らの発表をとおして自己の生き方を考えていくことは、子どもたちにとって非常に価値のあることである。

2 留意点

- 水俣病は未だに解決されていない問題であるという前提に立ち、子どもの実態にあった学習計画を立てること。
- 児童が活用する資料等については次の点に留意する。
 - ・専門的な内容に偏りすぎず、児童の活用が容易である資料をあらかじめ準備する。
 - ・Webサイトを利用するときは、あらかじめダウンロードをしたりブックマークに登録したりするなどの工夫を行い、活動時間の効率化を図る。
 - ・児童が引用する資料については、教師が目をとおし、内容・難易度等適切かどうか判断する。
- 本事例では、指導計画の一つの例として新潟の子どもたちに熊本の水俣病について伝える活動を示しているが、学校・児童の実態に応じて情報発信の対象者を設定する。

3 学習の進め方

(1) 単元の目標

- これまで学習してきた水俣病の学習の中から自ら課題を見付け、主体的に調べることができるようにする。
- 多様な視点から事実を見つめ、協力して課題解決できるようにする。
- 自分の発表や他者の発表をとおして、自己の生き方を考えることができるようにする。

(2) 指導計画(13時間取り扱い)

時間	目標	学習内容及び活動	備考
1	これまでの水俣病学習について振り返る。	○ これまでの水俣病の学習を振り返り、水俣病について考えたことや、もっと知りたいことについて話し合う。	①ーア ①ーイ ①ーウ

1 (本時)	課題意識を明確にし、学習計画を立てることができる。	<p>○ 学習課題を設定する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>(例) 水俣病について学んだことを新潟県の小学生に伝えよう！</p> </div> <p>○ 調べたいことを出し合い、分類してグルーピングをするとともに、活動計画を作成する。</p>	③-エ																														
6	自分の立てた計画に沿って分析・整理しながら調査活動を進める。	<p>○ グループで協力しながら活動計画に基づき調査活動を行う。</p> <p>※ テーマと調査内容 (例)</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>Aグループ</th> <th>Bグループ</th> <th>Cグループ</th> <th>Dグループ</th> <th>Eグループ</th> <th>Fグループ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>公害の原因について</td> <td>他の四大公害病について</td> <td>患者さんが今も苦しんでいる理由について</td> <td>水俣病の症状について</td> <td>チッソ工場の移り変わりについて</td> <td>自分にできることについて</td> </tr> <tr> <td>① 水銀とは何だろう</td> <td>新潟水俣病はどんな病気だろう</td> <td>認定制度とは何だろう</td> <td>胎児性水俣病はどのような症状だろう</td> <td>チッソ工場ができた頃はどんな様子だろう</td> <td>もやい直しとは何だろう</td> </tr> <tr> <td>② 水銀による公害が外国でもあるのだろうか</td> <td>四日市ぜんそくはどんな病気だろう</td> <td>どのような補償が行われたのだろうか</td> <td>水俣病患者さんの多くはどのような症状だろう</td> <td>水俣病が発生した頃はどんな様子だろう</td> <td>環境モデル都市の取組はどんなものだろう</td> </tr> <tr> <td>③ 公害の原因は他にどんなものがあるのだろうか</td> <td>イタイイタイ病はどんな病気だろう</td> <td>これまでのような裁判結果があったのだろうか</td> <td>患者さんはどんな思いをもっておられるのだろうか</td> <td>今のチッソ工場はどんな様子なのだろう</td> <td>水俣病の理解を進めるためにはどのようにすればよいのだろうか</td> </tr> </tbody> </table>	Aグループ	Bグループ	Cグループ	Dグループ	Eグループ	Fグループ	公害の原因について	他の四大公害病について	患者さんが今も苦しんでいる理由について	水俣病の症状について	チッソ工場の移り変わりについて	自分にできることについて	① 水銀とは何だろう	新潟水俣病はどんな病気だろう	認定制度とは何だろう	胎児性水俣病はどのような症状だろう	チッソ工場ができた頃はどんな様子だろう	もやい直しとは何だろう	② 水銀による公害が外国でもあるのだろうか	四日市ぜんそくはどんな病気だろう	どのような補償が行われたのだろうか	水俣病患者さんの多くはどのような症状だろう	水俣病が発生した頃はどんな様子だろう	環境モデル都市の取組はどんなものだろう	③ 公害の原因は他にどんなものがあるのだろうか	イタイイタイ病はどんな病気だろう	これまでのような裁判結果があったのだろうか	患者さんはどんな思いをもっておられるのだろうか	今のチッソ工場はどんな様子なのだろう	水俣病の理解を進めるためにはどのようにすればよいのだろうか	①-ア ①-イ ①-ウ ①-エ ③-ウ
Aグループ	Bグループ	Cグループ	Dグループ	Eグループ	Fグループ																												
公害の原因について	他の四大公害病について	患者さんが今も苦しんでいる理由について	水俣病の症状について	チッソ工場の移り変わりについて	自分にできることについて																												
① 水銀とは何だろう	新潟水俣病はどんな病気だろう	認定制度とは何だろう	胎児性水俣病はどのような症状だろう	チッソ工場ができた頃はどんな様子だろう	もやい直しとは何だろう																												
② 水銀による公害が外国でもあるのだろうか	四日市ぜんそくはどんな病気だろう	どのような補償が行われたのだろうか	水俣病患者さんの多くはどのような症状だろう	水俣病が発生した頃はどんな様子だろう	環境モデル都市の取組はどんなものだろう																												
③ 公害の原因は他にどんなものがあるのだろうか	イタイイタイ病はどんな病気だろう	これまでのような裁判結果があったのだろうか	患者さんはどんな思いをもっておられるのだろうか	今のチッソ工場はどんな様子なのだろう	水俣病の理解を進めるためにはどのようにすればよいのだろうか																												
3	調査したことを相手意識をもって分かりやすくまとめ、表現する。	<p>○ 調査したことを整理し、グループで分担しながら相手意識を明確にしてまとめさせる。</p> <p>○ 学級での発表する機会を設定するとともに、あらかじめ相手校と連絡を取り、調査した内容を送付して情報の共有を行う。</p>	③-ウ ③-エ																														
2	学んだことを振り返り、自己の生き方を考える。	<p>○ 学習をとおして学んだこと、考えたことを文章にまとめさせる。特に自分が調べた内容だけでなく、学級全体の調査内容をもとに「今後水俣病の学習をいかしてどのようにしたいか」について考えを導くように方向付ける。</p>	②-1 ②-2 ②-3 ②-4																														

(3) 本時の学習 (2 / 13)

ア 目標

学習課題を設定し、調査したい内容を整理するとともに、課題解決のための学習計画を立てることができる。

イ 展開

過程	主な学習活動	指導上の留意点	備考
導入 5分	1 前時の復習を行い、学習課題を設定する。 2 学習課題を設定する。	○ 前時の学習で振り返った、これまでの水俣病学習の内容やもっと知りたいことを発表させる。 ○ 新潟の小学生と触れあった時の子どもたちの作文等を提示し、方向付ける。	フラッシュカード
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">水俣病について学んだことを新潟県の小学生に伝えよう</div>			
展開 30分	3 調査したいことについて話し合う。 (1) 水俣病について疑問に思ったこと、調べてみたいことを話し合う。 (2) 調査したい内容を分類・整理する。 (3) グループで調査したい内容を話し合い、選択する。	○ 前もって水俣病に係る新聞記事を継続的に教室に掲示し、水俣病に関する関心を高めておく。 ○ 前時の学習を生かし、水俣病について疑問に思ったことや詳しく知りたいことを短冊に記入する。 ○ 記入した短冊を黒板に貼り、分類したうえで、それぞれのまとまりごとにテーマを設定する。 ○ 自分が調査したい内容と同じテーマによりグループをつくる。また、テーマを受けて新たに生じた調査内容を付け加えても良いことを指導する。	
まとめ 10分	4 活動計画表を作成する。 5 学習のまとめをする。	○ 内容が難しいなどの理由で調査活動が十分に行えないことが想定される場合は、調査可能な内容を例示する。 ○ グループで話し合いながら、役割分担ができるようにする。 ○ 次時の学習内容を説明する。	ワークシート

4 主な資料等

(1) 主な資料

- 水俣病とわたしたち～公害や環境を学習する子どもたちのために～（水俣市立水俣病資料館）
- 環境教育副読本「心ゆたかに水俣」（水俣市教育委員会）
- はじめて学ぶ水俣病（熊本県環境生活部水俣病保健課）
- 水俣病10の知識（水俣市立水俣病資料館・水俣病歴史考証館）
- 新潟水俣病の教訓を後世に伝えるために～新潟水俣病教師用指導資料～（新潟県）
- 関係機関ホームページ

(2) 詳細

A-①「水銀について」

- 「国立水俣病情報センター」ホームページに下記の内容で概略が示してある。
 - I、水銀の研究
 - II、いろいろな水銀
 - III、水銀のリサイクル
 - IV、自然界での水銀の動き
 - V、水銀の循環
 - VI、食物連鎖の1例
 - VII、測定法の今昔
 - VIII、現在の測定法
 - IX、土壌からの水銀回収
- 「水俣病10の知識」の「2」に掲載。
- 「はじめて学ぶ水俣病」の「5」に掲載。

A-②「水銀による公害」

- 「国立水俣病情報センター」ホームページ（世界の水銀汚染問題）に下記の内容で概略が示してある。
 - ・世界の主な水銀汚染
 - ・世界地図
 - ・自然環境の価値
 - ・世界の水銀汚染研究の現状

B-①「新潟水俣病」

- 「新潟県立環境と人間のふれあい館」ホームページで下記の冊子が閲覧できる。
 - ・『新潟水俣病のあらまし』（新潟水俣病の歴史をまとめたもの）
 - ・『未来へ語りついで～新潟水俣病が教えてくれたもの～』（小学生向け副読本）

B-②「四日市ぜんそく」

- 「四日市公害資料館」ホームページに公害のあらまし等が紹介されている。

C-①「認定制度」

- 水俣病認定要件「1977年環境庁基準」では次のようになっている。
次の障害の複数の症状が見られることが必要
 - (1) 感覚障害
 - (2) 運動失調

- (3) 平衡機能障害
- (4) 求心性視野狭窄
- (5) 中枢性眼科障害
- (6) 中枢性聴力障害
- (7) その他

○ 2004年関西水俣病最高裁判決で(1)～(7)の症状一つで水俣病と認定されることとなる。

C-②「補償」

- 「水俣病10の知識」の「7」に掲載
- 「水俣病とわたしたち」の「9」に掲載

C-③「これまでの裁判」

- 「水俣病とわたしたち」のp19・p20に掲載

D-①「胎児性水俣病」

- 「水俣病とわたしたち」の「5」に掲載

D-②「水俣病の症状」

- 「水俣病とわたしたち」の「5」に掲載

E-①「チッソ工場ができたころの様子」

- 「水俣病とわたしたち」の「2」に掲載
- 「水俣病10の知識」の「7」に掲載

E-②「水俣病が発生した頃の様子」

- 「水俣病とわたしたち」の「4」に掲載

E-③「現在のチッソの様子」

- 「水俣病10の知識」の「5」に掲載

F-①「もやい直し」

- 「水俣病とわたしたち」のp14に掲載
- 「水俣病10の知識」の「9」に掲載

F-②「環境モデル都市」

- 「水俣病とわたしたち」のp15～p18に掲載

F-③「水俣病の理解を進めるために」

- 水俣市の中学生への差別発言の新聞記事や各中学校の差別発言対応マニュアル

資料 1

ワークシート (例)

水俣病について学んだことを新潟県の小学生に伝えよう!

グループ名 ()

6年 組 番 ()

1 調査のテーマ

2 私の学習計画 (調査時間は6時間です)

調 査 内 容	調 査 方 法	時 間

※調査内容が2つ以上ある場合は、横線を記入してください。

3 調査するうえで特にがんばりたいこと

事例 8 (中学 1 年生 学級活動) : 題材名「今の水俣を伝えたい」

1 本事例の目的及び概要

県内外において、部活動の対外試合などにおける水俣病差別発言がこれまでも生じてきた。水俣に生きる生徒たちがこのような「差別」に直面したときに、その「差別」発言に的確に対応し、立ち向かっていく力を身につけておく必要がある。

生徒たちは、小学校から水俣病の患者さんと接したり、水俣病についての学習を重ねてきたりしている。これらの学びが生きて働く力となるために、本事例の学習を通して実践力をつけさせたい。

本事例は、身近な暮らしの中で、水俣病に対する差別や偏見に直面した時、どのように対応するかを考えさせる題材である。修学旅行先で、差別発言を受け、差別の不合理性に気づき、その差別に立ち向かおうとする主人公の姿を取り上げる。登場する人物に自分を重ねながら、水俣に生きる者として何を伝えるかを考えさせ、偏見や差別を許さない態度、そして水俣を誇りに思う心を育てたい。また、そのような態度や心の原動力となる水俣病についての正しい知識をもち、環境モデル都市として取り組む水俣の姿を理解した生徒を育てる必要がある。

2. 留意点

- 授業に入る前に、事前アンケートをとり、生徒の実態（これまでの水俣病学習の認識度や考え）を知り、授業にのぞむようにする。
- 主体的に、自信をもって「伝えたい」という思いを持たせるために、第 1 時で水俣病や水俣の取組について正しい知識をしっかりとおさえる。
- 様々な授業形態を工夫し、水俣病の学習を自分のこととして、真剣に考え取り組ませる。

3 学習の進め方

(1) 題材の目標

水俣病差別についての正しい知識と理解のもと、差別を見抜き、差別に立ち向かっていく力を身につける。

(2) 指導計画 (2 時間取り扱い)

時間	目標	学習内容及び活動	備考
1 (本 時)	<ul style="list-style-type: none"> ○ これまでの水俣病学習を振り返り、水俣病及び、現在の水俣についての正しい知識を再確認することができる。 ○ 身近な場面における水俣病差別の実態から、差別の不合理的 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 事前アンケートをもとに、資料『水俣病 Q & A』で水俣病について学んできたことを整理する。 ○ 創作資料『今の水俣を伝えたい』の前半部分 (1 枚目) を読み、感想を交流する。 ○ かずやのセリフ (あらかじめ空欄にしておく) や主人公の「あやまれ！」の後に続くセリフを考え、発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ①ーア ①ーエ ③ーイ ③ーア

	<p>さを見抜くことができる。</p>	<p>○ 本時の感想をまとめる。</p>	
<p>2 (本 時)</p>	<p>差別発言に対して今の水俣をどのように伝えるか考え、発表することができる。</p>	<p>○ 創作資料『今の水俣を伝えたい』の前半部分（1枚目）を黙読し、前時の学習を振りかえる。</p> <p>○ 後半部分（2枚目）を読み、「水俣を伝える会」で主人公はどんなことを伝えたのか話し合う。</p> <p>○ 自分が、主人公だったらどう伝えるか、実際に学習シートに記入し、発表し合う。 (班→代表者を選出し全体で)</p> <p>○ 友達の意見に感想を述べ合う。</p> <p>○ 資料『伝えたい』を読み、学習の感想をまとめる。</p>	<p>①ーア ①ーエ ③ーウ ③ーエ ③ーオ</p>

(3) 本時の学習 (1/2)

ア 目標 これまで水俣病について学んできたことを振り返り、水俣病差別の不合理さを見抜き、許さない態度を身につけることができる。

イ 展開

過程	主な学習活動	指導上の留意点	備考
導入 5分	1 水俣病について学習してきたことを振り返る。	○ 小学校の学習を振り返り、学んできたことをキーワードで整理する。	
展開 40分	<p>2 事前アンケートの結果をもとに話し合う。</p> <p>3 創作資料『今の水俣を伝えたい』の1枚目を読み、話し合う。 (1) 読み終えて、感じたこと・考えたことを発表する。 (2) 資料中のかずやのセリフ「今の水俣の海はなあ、・・・。」に続くセリフをかずやになったつもりで考える。 (3) 主人公の僕は、「あやまれ！」と叫んだ後にどんなことを相手に言いたかったのか話し合う。</p>	<p>○ アンケートの中で正しく認識されていない部分などを主に取り上げ、「水俣病 Q & A」の解説をもとに再確認していく。特に事前アンケートのQ 2, 4, 6, 7については、詳しく押さえておく。</p> <p>○ 「不愉快だ」「許せない」などの率直な感想を大切にしたい。生徒の発言を黒板に整理していくことで、次のかずやのセリフを考えやすいようにつなげていきたい。</p> <p>○ 学習シートに記入した言葉をかずやになったつもりで発表させ、考えを共有化したい。</p> <p>○ 個人で考え、班で考えを出し合い、班の考えを集約して、ホワイトボードに書き、全体で発表させていく。多様な考えがあることに気づかせたい。</p>	<p>事前アンケートの集計結果 「水俣病 Q & A」</p> <p>創作資料『今の水俣を伝えたい』</p> <p>学習シート①</p>
まとめ 5分	4 学習の感想をまとめる。	○ 水俣病は自分たちにとって身近な存在であることに気づかせ、水俣病についての正しく理解することが大切であることを説明する。	

(4) 本時の学習 (2/2)

ア 目標 水俣病差別をなくすためには、正しい知識や水俣を大切にすることを伝えることが重要であることを考えることができる。

イ 展開

過程	主な学習活動	指導上の留意点	備考
導入 7分	1 創作資料『今の水俣を伝えたい』の前半部分(1枚目)を黙読し、前時の学習を振りかえる。	○ かずやのセリフを入れたものを提示し、前時に話し合った「あやまれ！」のあとに続く言葉などを想起させる。	創作資料
展開 33分	2 後半部分(2枚目)を読み、「水俣を伝える会」で主人公はどんなことを伝えたのか話し合う。 3 自分が、主人公だったらどう伝えるか、実際に学習シートに記入し、発表し合う。 (班→代表者を選出し全体で) 4 友達の意見に感想を述べ合う。	○ 学級全体で予想される内容を大まかに話し合い、伝えたいことのポイントを押さえたい。 (ポイント) ① 現在の水俣湾のこと ② 水俣病についての正しい知識 ③ 水俣病を教訓にした取組 ・環境モデル都市づくり ・もやい直しなど ○ 学習シートの吹き出しの中に、記入させる。 ○ 班ごとに発表し合い、最もその思いが伝わった内容を選出し、全体で発表する。 ○ 感想交流を行う。	学習シート②
まとめ 10分	5 資料『伝えたい』を読み、学習の感想をまとめる。	○ 伝える側の自分たちが、水俣を誇りに思うことや水俣病について正しく認識していることが大切であることを考えさせたい。	資料『伝えたい』

4 主な資料等

- 「水俣病Q&A」 水俣病資料館
- 創作資料「今の水俣を伝えたい」
- 『伝えたい』 「こころ豊かに共に生きる」(熊本県)より

資料 1

事前学習アンケート

氏名 ()

Q 1 水俣病の原因は、何だったでしょうか。知っていることを書いてみよう。

Q 2 水俣の魚は今でも食べたら危険ですか？ (○をつけよう)

危険である

危険ではない

わからない

Q 3 水俣病には、どんな症状が見られたでしょうか。知っていることを一つ書いてみよう。

()

Q 4 水俣病は伝染したり、遺伝したりしますか？

する

しない

わからない

Q 5 水俣湾の外にも、水俣病が広がっていったのですか？

広がった

広がらなかった

わからない

Q 6 水俣病に対して差別やいじめは、今でもあると思いますか。

思う

思わない

わからない

Q 7 水俣市では、環境を良くしていくためにどのようなことが行われていますか。

Q 8 あなたは、水俣病問題からどんなことを学びましたか。

資料二

今の水俣を伝えたい

あれは、修学旅行での出来事だった。

ぼくたち水俣中学校は、毎年、関西方面へ二泊三日の修学旅行へ行くことになっていた。その年、ぼくたちは、奈良市内のホテルに宿泊した。

一日目の夜、入浴を済ませ、同じ班のかずやと、自由時間にホテルロビーの売店でお土産物を見ることにした。その日は、水俣中以外にもう一つ別の中学校が来ていて、ロビーの売店は、ジャージ姿の中学生でにぎわっていた。

「おまえたちさあ、あの水俣病の水俣からきたの？」

と、突然話しかけられた。なんだか、嫌みな聞き方だなど思ったが、

「ああ、そうだよ。」

と答えておいた。体育服の背中にプリントされた中学校名を見て言ったのだろう。すると、

「なあ、今も水俣の魚を食ったら、水俣病にかかるんだろ？」

と尋ねてきた。楽しいはずの修学旅行の夜にこんな質問をされて、しかも、何て答えればいいのか考えていた矢先、

「今の水俣の海はなあ、とてもきれいかとぞ。そぎやんことも知らんとか。」

隣にいたかずやだった。ふだん穏やかなかずやがいつになく、興奮していた。

「そんな、言い方ないだろう。なんだこいつら……。」

と不満げな顔をして、彼らはその場を立ち去っていった。

興奮が冷めずに、立ちすくんでいるかずやに

「かずや、もう部屋にもどろう。」

といい、僕たちは、無言で部屋まで歩いた。部屋にもどっても、かずやは、ずっとだまつたまだった。布団に入った僕たちは、いつの間にか眠りについていった。

次の朝。朝食は、大ホールでバイキング方式だった。大ホールに行ってみると、そこには、水俣中だけでなく、夕べのあの中学生たちもいた。また、彼らに会うんじゃないかと嫌な予感がしていた。

列に並び、お盆にご飯、みそ汁をのせ、大好物の卵焼きをとり忘れたことに気づいて、引き返そうとしたとき、誰かと肩が触れ、みそ汁がこぼれた。その時、

「触るな、水俣病！」

という声があった。夕べ質問してきた彼だった。頭の中が真っ白になっていくのが分かった。夕べのかずやと彼とのやりとりがよみがえった。とつさに

「あやまれ！……。」

と叫んでいた。すると、

「何で俺があやまらなきやならないんだ。おまえがぶつかってきたじゃないか。」

と返してきた。二人は、その場で無言でにらみ合った。

この二人の様子を見て、心配した水俣中の生徒が、先生に知らせ、「どうしたんだ。」と駆け寄る先生の声と共に、そのにらみ合いはおさまった。

朝食後、僕は、担任の先生に夕べからのいきさつを話した。

「そうか、そんなことがあったのか。だけど、売り言葉に買い言葉を言つても、何も解決せんだろう。」

「先生、ぼくは、くやしか。水俣のことは何もしらんもんにあぎゃんことばいわれたくなかですよ。これからも、今度みたいなことを言われて嫌な思いをせんばんとですか・・・。」

「うーん・・・そうだ！」

しばらく黙っていた先生は、何か思いついたらしく、一気に話し始めた。

「彼らの中学校も今日まで、このホテルに宿泊するらしいから、今日の夜、両方の学校で、『水俣を伝える会』をやったらどうだろうか。今まで、勉強してきたことを、彼らに話してみらんか。」

先生の唐突な提案で、彼らにわかつてもらえるか不安ではあったが、やってみる価値はあるのではないかと思ひ始めた。

ぼくは、京都観光へ向かうバスの中で、『水俣を伝える会』のことを考えていた。今の水俣のことをどんな風に伝えようかと。

そして、修学旅行二日目の夜、『水俣を伝える会』が開かれた。ぼくは、今の水俣について語り始めた。

「伝えたい」

水俣で起こった出来事は

たくさんの夢と希望をうばい

苦しみを与えた

でも 人々は

うらむことよりも

今までの環境をとり戻そうとがんばった

前を向いて

平和を目指して

ゆつくりと歩き出した

後もどりをしないように

被害者だけではできないこと

私たちにもやれること

それは

知らない人に伝えるということ

一人一人が手をつなぐように

人から人へと

伝えていくこと

未来を夢みて

* 「こころ豊かに共に生きる」(熊本県) より

資料四

水俣病学習シート ①

一年 組 ()

☆1 「今も水俣の魚を食ったら、水俣病にかかるんだろ？」と尋ねられたかずやは、
どんなセリフを返したでしょうか。かずやになったつもりで考えてみましょう。

今の水俣の海はなあ、



☆2 主人公の僕は、「あやまれ！」と叫んだあとに、どんなことを相手に言いたかったのでしょうか、考えてみましょう。

Blank rounded rectangular box for writing an answer to question 2.

☆3 今日の学習の感想を書きましょう。

Large rounded rectangular box for writing a reflection, featuring horizontal dashed lines for writing.

☆1 主人公の立場に立って、「水俣を伝える会」で伝えたいことを書いてみよう。

Blank writing area with horizontal dashed lines for student response.

☆2 「伝えたい」を読んで、今回の学習の感想をまとめてみよう。



Blank writing area with horizontal dashed lines for student response.

事例9（中学校2年生 学級活動）：題材名「内側からの差別と向き合っ て」

1 本事例の目的及び概要

本事例では、水俣病が外側からの差別（水俣市外の人々が水俣の人に対して行う差別）だけでなく、内側からの差別（水俣に住む人々の間で起こった差別）を引き起こしたことについて知るとともに、自分のこれからの生き方を考えることをねらいとしている。

生徒たちは前学年までの学習で、外側からの差別の不合理さや理不尽さを感じるできるようになっている。しかし、水俣病差別の問題は外側からの差別の問題にとどまらない。

「水俣病を発症したから」「家族に患者がいるから」などの理由で差別を受けた「内側からの差別」もまた大きな問題であった。これまで良好な関係を築いていた身近な人々から差別され、絆を断ち切られる悲しみは大きく、水俣病の患者やその家族は、裁判を闘う一方でこれらの差別にも立ち向かっていかなければならなかった。本事例では、内側からの差別に立ち向かってきた人々の思いにふれ、差別のつらさや悲しさに共感するとともに、差別に立ち向かい、差別をなくしていこうとする生徒を育成していきたい。

このねらいを達成するために、語り部であった杉本栄子さん（故人）の言葉を収録したDVD「水俣病で受けた差別や苦しみをのさりに変えて」を活用する。受けた差別を「のさり（神様からの授かり物）」と感じるに至った杉本さんの言葉にはとても強い力があり、差別に負けない、差別を許さない人間になるためのメッセージが杉本さんの言葉に込められている。その思いに共感させて、今後の生き方を考える機会にしていきたい。

指導にあたっては、「厳しい差別の現実を知ること」と「差別とどう向き合い、闘ってきたのか感じ取ること」の2つの視点を持ってDVDを視聴できるようにする。それぞれの場面で、差別を受けた苦しみやつらさに共感させ、差別と闘う杉本さんの思いの強さを感じさせたい。

2 留意点

- 使用するDVDは、水俣病資料館が所有しているので借用する。
- グループで話し合ったり、一人一人が感じたこと、考えたことを共有したりする場面を設け、自分の考えを深めていけるようにする。
- 流れる音声を生徒がきちんと把握できるように、事前に指導者がDVDを視聴し、杉本さんの言葉や父親の教えなど重要な部分を短冊に書き出しておく。

3 学習の進め方

（1）題材の目標

水俣病に係る内側からの差別について知り、差別の厳しさやつらさを感じ取るとともに、杉本さんの生き方について考え、差別に立ち向かい差別をなくしていこうという思いを持つ。

(2) 指導計画 (2時間取り扱い)

時間	目標	学習内容及び活動	備考
1	内側からの差別について知り、差別の厳しさやつらさを感じ取る。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 前学年の学習をふり返る。 ○ DVD を視聴し、内側からの差別がどのようなものであったのかを把握する。 	<ul style="list-style-type: none"> ①ーアイ ③ーア
1	杉本さんの生き方について考え、差別に立ち向かい差別をなくしていこうという思いを持つ。	<ul style="list-style-type: none"> ○ DVD を視聴し、杉本さんが差別にどう向き合っていたのかを考える。 ○ これからの自分の生き方について考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ②ーアイ ②ーウエ ③ーオ

《DVD「水俣病で受けた差別をのさりに変えて」要旨》

1 どんな差別を受けてきたのか

- 「(家の) 戸を開けるな」「回覧板を持ってこなくてよいぞ。」「村道を歩くな。」等の言葉を浴びせられた。
- 自宅の階段に糞尿が置かれた。
- 石を投げつけられた。
- 病院に行く時は、周りの人から隠れて家を出なくてはならなかった。
- 裁判に訴えたことで、さらにひどいじめが起こった。
- 偏見を持たれることを恐れて患者申請をせず、そのまま死んでいった患者もいた。

2 杉本さんの父親の教え

- (いじめに対して) こんな事はしてはいけない。
- 人は変えられないから、自分が変わっていかないといけない。
- その人(いじめる人)がどんな気持ちで言っているのか、目を離すな。
- 相手がどういう気持ちで言ってくるのか、相手の心の中まで見通せ。そうすれば生き残ることができる。
- 相手が言ったことは、すべて相手に持って帰ってもらえ。

3 杉本さんの思い

- 病気になったのが二番目だったら、自分も差別者になっていたかもしれない。
- 自分の命を守るためには、他の人の命も大切にして人を粗末にはしてはいけない。
- いじめにあった人は、いじめ返すのではなく、その人よりも強くなれ。
- いじめ返すのは、してはならないことを自分がやっているのと同じ。
- いじめる人よりも強くなれ。いじめがあつたら止める人になれ。

(3) 本時の学習 (1/2)

- ア 目標 内側からの差別の様子について理解し、差別の厳しさやつらさについて考える。
イ 展開

時間	主な学習活動	指導上の留意点	備考
導入 5分	1 これまでの水俣病学習についてふり返り、学習の見通しを持つ。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 水俣病の原因や被害の様子、外側からの差別について、今までの学習をふり返らせる。 ○ 水俣病差別の問題は、外側からの差別だけではないことを話し、本時では内側からの差別について学習することを伝える。 	
展開 38分	<p>2 「内側からの差別」について考える。</p> <p>(1) 杉本さんがどのような差別を受けたのかを知る。</p> <p>(2) 差別を受けた時の杉本さんの気持ちを考える。</p> <p>(3) 自分がこのような差別を受けたらどう行動するか話し合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ これから視聴するDVDの概要について説明する。 ○ DVDの前半部分(最初から15分37秒まで)を視聴させ、どのような差別があったのかをワークシートに記入させる。 <ul style="list-style-type: none"> ・「戸を開けるな」等の言葉を浴びせられた。 ・自宅の階段に糞尿が置かれた。 ・裁判に訴えたことでいじめがひどくなった。 ・石を投げつけられた。 など ○ 杉本さんの思いを考え、ワークシートに記入させる。 ○ 「今まで仲が良かった人から急にいじめられるようになったらどう思うか」「周りの人がみんな急に敵になってしまったらどう思うか」などの補助発問をし、自分のこととして考えられるようにする。 ○ 自分なりの考えをワークシートに書かせたうえで小集団で話し合わせ、自分の考えを発表させる。 ○ グループで出た意見を代表者に発表させ、全体で意見を共有する。 	DVD ワークシート
まとめ 7分	<p>3 本時の学習内容をまとめる。</p> <p>(1) 本時の感想を書く。</p> <p>(2) 次時の見通しをもつ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 本時の感想をワークシートに記入させ、発表させる。 ○ 次時では杉本さんが差別とどのように闘ったのかを学ぶことを伝える。 	ワークシート

(4) 本時の学習 (2/2)

ア 目標 杉本さんの生き方をとおして、差別に立ち向かい差別をなくしていくことの大切さについて考える。

イ 展開

時間	主な学習活動	指導上の留意点	備考
導入 5分	1 前時の学習内容をふり返り、本時の見通しを持つ。	○ 前時の内容を簡単にふり返り、本時では差別とたたかった杉本さんの思いについて考えることを伝える。	前時のワークシート
展開 40分	2 杉本さんの思いについて考える。 (1) 杉本さんは父親からどのようなことを学んだのかを知る。 (2) 自分の考えと比較しながら、杉本さんの父親の思いについて考える。 (3) 杉本さんの思いについて考える。	○ DVDの中盤(15分37秒~25分50秒)を視聴させる。 ○ 杉本さんの言葉やテロップなどを参考にして、父親の教えをワークシートに記入させる。 ○ 生徒の生活体験と関連づけながら、杉本さんの思いに共感できるように配慮する。 ○ 杉本さんの父親から学ぶところはどんなところか考え、ワークシート(二重枠の部分)に記入させる。 ○ 前時に考えた自分なりの対処法と比較させ、杉本さんがどんなに辛くても最後までくじけなかったこと、他の人に仕返しをしなかったことなどに気づかせる。 ○ DVDの最後まで(約9分間)視聴させ、水俣病差別の体験から杉本さんがどのようなことを学んだのかをワークシートに記入させる。 ○ 生徒が考えをまとめやすくするために、杉本さんの言葉を書いたフラッシュカードを黒板に貼る。 ○ 「のさり」という言葉にも着目させ、前向きに生きた杉本さんの強さにも気づかせる。	DVD ワークシート 父親の教えを書いた短冊 杉本さんの言葉を書いたフラッシュカード
まとめ 5分	3 自分の考えをまとめる。	○ これからの学校生活や将来の生き方について、自分なりの言葉で感想をまとめさせる。 ○ お互いに感想を発表させて意見交流を行い、差別に負けないという意識を持たせる。	

4 主な資料等

DVD「水俣病で受けた差別や苦しみをのさりに変えて」(水俣市立水俣病資料館)

資料1

水俣病学習 内側からの差別と向き合って①

2年 組 名前 ()

内側からの差別について考えよう。

1 杉本栄子さんについて

- 1938年生まれ 水俣市の茂道で育つ。漁師の網元の後継ぎとして育てられる。
- 1974年に水俣病と認定される。
- 母親が最初に水俣病を発症。隣近所からもいじめや差別を受けた。

2 ビデオを見て、内側からの差別について考えよう。

- 杉本さんはどのような差別を受けてきたのか。

.....

.....

.....

.....

.....

- 差別を受けた時の杉本さんは、どんな思いだったろうか。

.....

.....

.....

.....

.....

- 自分がこのような差別を受けたらどうするか。

.....

.....

.....

.....

.....

3 今日の学習の感想を書こう。

.....

.....

.....

.....

.....

資料2

水俣病学習 内側からの差別と向き合って②

2年 組 名前 ()

差別とたたかう杉本さんの生き方について考えよう。

1 差別とたたかう杉本さんの父親の教えとは、どのようなものだったのだろうか。

いじめに対して
「こんなことは絶対に ()」
「人は変えられないから、()」
「その人がどういう気持ちで言ってくるのか、()」
「(相手の) ()を見通せ。見通すぐらいの人になれ。
そうすれば生き残れる。」
「相手の言ったことは、()」

杉本さんの父親の教えから、どんなことを学んだか。

[Empty box for writing answers]

2 内側からの差別の体験を通して、杉本さんが学んだことはどんなことだろうか。

3 今日の学習の感想を書こう。

事例10（中学校3年生 学級活動）：題材名「『水俣病の教訓を生かす』生き方について考えよう」

1 本事例の目的及び概要

これまで生徒は、水俣病が発生した原因や水俣病に伴い生じた差別の実態、その差別に負けずたくましく生きる人々の姿などについて学習してきた。また、水俣病により未曾有の被害を経験したからこそできる環境保全の取組や地域づくりについての学習により、「ふるさと水俣」のよさを語るができるようになりつつある。

本題材では、まず「水俣病の教訓を生かす」とはどういうことであるのかを生徒に考えさせる。そして、それぞれが抱いた考えに、長年、環境に配慮したモノづくりや地域再生の最前線で活躍してきた方々の思いを加え、一人一人の生き方として自分なりの答えをもてるようになることを目的とする。

9年間の義務教育を終えるにあたり、「ふるさと水俣」を誇りに思い、人にも自然にもやさしい持続可能な社会を構成する一人として、心豊かに今後の人生を歩むきっかけの一つとしたい。

2 留意点

- これまで学習してきた水俣病に関する学習を振り返り、その中には環境保全、人権擁護、地域づくりなど様々な視点が含まれていることを理解したうえで、「水俣病の教訓を生かす」生き方について自分なりの考えをまとめられるようにする。（原稿用紙1枚程度）
- 環境に配慮したモノづくりや地域再生の最前線で活躍しておられる水俣市の「環境マイスター」や各校でのこれまでの学習でかかわりがあった方をゲストティーチャーに招き、その方の考えにふれることができるようにする。事前学習としてゲストティーチャーとの交流を深めておいたり取材したりといった活動が取り入れられると、いっそう学習が深まると考えられる。
- 水俣病により生じた差別と向き合い、たくましく、そして前向きに生きている人々や、環境を守るために自分ができることに地道に取り組んでいる人々を身近に感じさせ、その生き方の尊さを理解させたい。水俣市が全国的に環境モデル都市として認められているからというだけでなく、そのような人々に学ぶ活動を通して、同じ水俣市民として「ふるさと水俣」を誇りに思う心情をはぐくむようにしたい。
- 生徒の作文については、そのいくつかを人権集会等で発表するなどして、考えを共有し合えるような機会を設定し、学校全体としての意識が高まることを期待したい。

3 学習の進め方

（1）題材の目標

これまでの水俣病に関する学習を振り返り、「水俣病の教訓を生かす」生き方について、自分なりに考え、水俣を誇りに思うことができるようにする。

（2）指導計画（2時間取扱い）

時間	目 標	学習内容及び活動	備考
1 (本時)	水俣病に関するこれまでの学習を振り返ったり、ゲストティーチャーの話を聞いたりしたことをもとに、「水俣病の教訓を生かす」とはどういうことか考えることができる。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 水俣病に関して、小学生の時や中学生になってから学んだことなど、順を追って振り返る。 ○ ゲストティーチャーのお話を聞き、水俣病との向き合い方、教訓として生かしていることなどの視点でメモをとる。 ○ 「水俣病の教訓を生かす」視点について考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 1-ア 1-エ 1-オ 2-ア 2-エ 3-ア
1	「水俣病の教訓を生かす」生き方について互いの発表を聞き合い、自分の考えを高めるとともに、水俣を誇りに思うことができる。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「水俣病の教訓を生かす」生き方について自分なりに作文にまとめる。 ○ 作文を小集団内で発表し合い、それぞれのよさについてまとめ、全体で報告し合う。 ○ 作文を加筆修正し、仕上げる。 ○ 全員が同じ内容になることが大切なのではなく、一人一人がしっかりとした考えをもったうえで、互いを認め合えることが大切であることを伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> 2-ア 2-ウ 2-エ 3-ア 3-エ

※ 水俣病に関する主な既習内容と、予想される「水俣病の教訓を生かす」生き方の例

○ 水俣病の原因はなかなか特定できず、その間、被害が拡大した。	→ 自分の非は素直に認め、被害を受けた者に対しては誠意をもって対応する。
○ 水俣病は伝染しないとわかってからも、差別は続いた。(内側からの差別)	→ 誤った知識に左右されず、科学的な見方や考え方に基づいて行動し、「差別をしない、差別をさせない」強い心をもつ。
○ 水俣病のことをよく理解していない人から不愉快なことを言われることがある。(外側からの差別)	→ 相手の誤った認識を改めることができるように、自分自身がよく理解しておく。暴力や報復に解決を求めない。
○ 利潤追求を優先し、命と、命をはぐくむ自然を大切にしなかったことが、大きな環境破壊をもたらした。	→ 命の尊さの理解を深め、自分自身の行動を振り返り、環境に配慮した生活をす
○ 水俣病によって生じた差別により断たれた、人と人とのつながりを取り戻すために「もやい直し」が行われている。	→ 人と人とのつながりを大切にし、地域の中で自分にできることは積極的に行動し協力する。
○ 水俣病を負の遺産としないために、「環境モデル都市づくり」に取り組んでいる。	→ 地域の一員として、自分にできる小さなことを大切にし、日常的に取り組めるようにする。

(3) 本時の学習 (1 / 2)

ア 目標

水俣病に関するこれまでの学習を振り返ったり、ゲストティーチャーの話を聞いたりしたことをもとに「水俣病の教訓を生かす」とはどのようなことか考えることができる。

イ 展開

過程	主な学習活動	指導上の留意点	備考
導入 5分	1 「教訓を生かす」とは どのようなことか考える。	○ 水俣市民の一人として、水俣病を負の 遺産として終わらせず、「教訓」として 前向きにとらえることの大切さを伝える。	
展開 40分	2 本時のめあてを確認 する。 「水俣病の教訓を生かす」とは、どのようなことだろうか。		
	3 これまでの水俣病に 関する学習を、教訓にで きそうなことという視 点で振り返る。 4 ゲストティーチャー のお話を聞き、水俣病へ の向き合い方、教訓とし て生かしていることな どについてメモをとる。	○ 水俣病が発生した経緯、差別の実態、 環境モデル都市づくりの取組といった 代表的な事例と、教訓にできそうな内容 を簡潔に取り上げる。 ○ ゲストティーチャーを紹介し、本時の 内容とのつながりを明らかにする。 ○ ゲストティーチャーとは、事前の打ち 合わせの中で、以下のことについて話し ていただくようお願いしておく。 ・ 現在取り組んでいること ・ 水俣病との出会い ・ 水俣病の教訓としていること（人権 擁護の視点から、環境に配慮するとい う視点から、地域再生の視点から）	水俣病に 関する既 習内容一 覧 ゲストテ ィチャー に関する 掲示資料 等
ま と め 5 分	5 ゲストティーチャー のお話を聞いた感想を 出し合う。	○ お話の全体的な感想を出し合うだけ でなく、水俣病の教訓をどう生かしてい たかについて明らかにしていく。 ○ 自分自身は、どんなことを教訓とし たいか考える。	

(4) 主な資料等

- 心ゆたかにみなまた (水俣市教育委員会)
- 「水俣病 Q&A」 (水俣市立水俣病資料館)

資料 1 学習シート (1 / 2)

「水俣病の教訓を生かす」生き方について考えよう」

○これまでの水俣病に関する学習を振り返って、自分の教訓にできそうなことは？

年	出来事	教訓にできそうなこと
昭和 7 年	アセトアルデヒド生産を始める	
昭和 21 年	太平洋戦争が終わり、生産が再開される	
昭和 31 年	チッソ附属病院「きちんと歩いたり話したりできないなどの症状の患者 4 名発生し、入院させた」と熊本県水俣保健所に報告する(5月1日 水俣病の公式確認日) 水俣市人口 50,461 人、久木野村と合併人口ピーク	
昭和 38 年	熊本大学医学部の研究者「水俣病の原因はメチル水銀である」と発表する	
昭和 40 年	新潟水俣病公式確認される	
昭和 43 年	政府「水俣病の原因はチッソの工場廃水に含まれるメチル水銀」と断定	
○ 水俣病の原因はなかなか特定できず、その間被害が拡大した。		→
○ 水俣病は伝染しないとわかってからも、差別は続いた。(内側からの差別)		
○ 水俣病のことをよく理解していない人から不愉快なことを言われることがある。(外側からの差別)		
昭和 52 年	水俣湾へドロ処理始まる (1977年)	
平成 2 年	水俣湾へドロ処理埋立地完成する (1990年)	
○ 利潤追求を優先し、命と、命をはぐくむ自然を大切にしなかったことが、大きな環境破壊をもたらした。		→
平成 4 年	水俣市が「環境モデル都市づくり宣言」	
平成 5 年	5 種類 20 分別のごみ分別収集始まる	
平成 6 年	市長、水俣病犠牲者慰霊式で「もやい直し始まりの日とします」と挨拶	
○ 水俣病によって生じた差別により断たれた、人と人とのつながりを取り戻すために「もやい直し」が行われている。		→
平成 11 年	水俣市 ISO 14001 の認証を取得	
平成 13 年	第 1 回環境首都コンテスト 2 万以上 5 万未満の中で水俣市が第 1 位	
平成 20 年	国の環境モデル都市 (全国 13 都市) に認定	
○ 水俣病を負の遺産としないために、「環境モデル都市づくり」に取り組んでいる。		→

○ ゲストティーチャーのお話を聞いて

主な取り組みは、

「水俣病の教訓」としていることは、



水俣病関係年表

1889年	明治22年	水俣村 人口 12,040人
1908年	明治41年	・日本窒素肥料株式会社設立
1932年	昭和 7年	・アセトアルデヒド生産を始める
1946年	昭和21年	・太平洋戦争が終わり、生産が再開される
1949年	昭和24年	水俣市になる 人口 42,270人
1956年	昭和31年	<ul style="list-style-type: none"> ・チツソ付属病院「きちんと歩いたり話したりできないなどの症状の患者4名が発生し、入院させた」と熊本県水俣保健所に報告する(5月1日 水俣病の公式確認日) ・熊本県水俣保健所が中心になり調査を始める ・熊本県と水俣市は熊本大学医学部に原因調査を依頼
		水俣市 人口 50,461人 *久木野村と合併人口ピークとなる
1957年	昭和32年	・熊本大学医学部の研究者「水俣湾内の魚をとるのは禁止することが必要」と報告する
1959年	昭和34年	<ul style="list-style-type: none"> ・熊本大学医学部の研究者「水銀が極めて注目されるに至った」と発表(7月) ・チツソ付属病院細川院長 ネコ実験を開始する ・市漁協等がチツソに漁業補償、ヘドロ除去、浄化装置の設置を要求 ・ネコ実験でネコ400号が発病する ・見舞金契約が結ばれる ・国の食品衛生調査会が「水俣病は、魚介類を多量に摂取することによっておこる中毒性の病気であり、その原因はある種の有機水銀化合物である。」と答申(11月)
1962年	昭和37年	・16人が初めて胎児性水俣病と診断される
1963年	昭和38年	熊本大学医学部の研究者「水俣病の原因はメチル水銀である」と発表する。
1965年	昭和40年	・新潟水俣病公式確認される
1967年	昭和42年	水俣市 人口 43,337人
1968年	昭和43年	・政府「水俣病の原因はチツソの工場排水に含まれるメチル水銀」と断定し、公害病と認定
1969年	昭和44年	・患者家族28世帯112人がチツソを訴える(水俣病第一次訴訟)
1972年	昭和47年	・水俣市立明水園が開園する
1973年	昭和48年	<ul style="list-style-type: none"> ・水俣病第一次訴訟で患者側が勝訴する ・水俣病病名変更署名運動始まる ・チツソと患者の補償協定書調印
1974年	昭和49年	・水俣湾仕切り網を設ける
1975年	昭和50年	<ul style="list-style-type: none"> ・熊本県、水俣市漁協「水俣湾内の魚をとらないように」との看板を立てる
		水俣市人口 36,782人

1976年	昭和51年	・熊本県水俣病検診センターができる
1977年	昭和52年	・水俣湾ヘドロ処理始まる
1978年	昭和53年	・国立水俣病研究センターができる
1980年	昭和55年	水俣病第三次訴訟始まる(その後、東京・京都・福岡・新潟でも提訴される)
1982年	昭和57年	水俣病関西訴訟始まる
1985年	昭和60年	水俣市 人口 36,520人
1987年	昭和62年	水俣病第三次訴訟一審判決(国の責任を初めて認めた)
1990年	平成2年	・水俣湾ヘドロ処理埋立地完成する ・東京地方裁判所で初めての和解勧告 その後いくつかの裁判所から和解勧告がだされる
1993年	平成5年	・水俣市立水俣病資料館ができる ・熊本県環境センターができる ・水俣市で5種類20分別のごみ分別収集が始まる
1995年	平成7年	・仕切り網の一部撤去が始まる 水俣市 人口 32,842人 ・政府が水俣病問題解決策を出す
1996年	平成8年	・主な患者団体が解決策を受け入れる
1997年	平成9年	・仕切り網が完全撤去される ・熊本県の知事が水俣湾の安全宣言を出す
2000年	平成12年	水俣市 人口 31,688人
2001年	平成13年	・国立水俣病総合研究センターの附属施設として水俣病情報センター(明神町)が開館
2002年	平成14年	・県内の小学5年生を対象にした「こどもエコセミナー」がスタート
2004年	平成16年	・水俣病資料館の平成15年(2002)1年間の入館者数が5万人を突破 ・10月15日、関西訴訟最高裁判決で国と熊本県の行政責任が確定
2005年	平成17年	・熊本県の認定申請が関西訴訟最高裁判決後500人超す 水俣市 人口 30,068人 ・ノーモア・ミナマタ訴訟始まる
2006年	平成18年	・5月1日、水俣病公式確認50年事業が行われる
2008年	平成20年	・水俣市が環境モデル都市に選ばれる
2009年	平成21年	・水俣市がゼロ・ウェイスト宣言を行う
2010年	平成22年	・水俣病被害者の救済及び水俣病問題の解決に関する特別措置法成立

本資料集を作成した人たち（水俣市環境学習資料作成委員会）

水俣市立久木野小学校	校 長	上舞 隆夫
水俣市立水俣第一小学校	教 諭	田中 正博
水俣市立水俣第一小学校	教 諭	永里 達也
水俣市立水俣第二小学校	教 諭	濱田 真理子
水俣市立水東小学校	教 諭	藤井 知加子
水俣市立袋小学校	教 諭	田尻 則幸
水俣市立葛渡小学校	教 諭	竹崎 永謹
水俣市立袋中学校	教 諭	宇田津 正樹
水俣市立葛渡中学校	教 諭	市川 千代美
水俣市立湯出中学校	教 諭	吉田 幸広
水俣市教育委員会	教育次長	浦下 治
水俣市教育委員会	指導主事	濱田 良彦

平成23年3月31日発行
編集・作成 水俣市教育委員会